I-O DATA

モバイルデータ通信アダプタ

SnapConnect 500
(PC9664-500)

取扱説明書

株式会社 アイ・オー・データ機器

102823-01

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
   したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関る設備や機器、及び海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
3) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
4) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社PLANTコールセンターまでご連絡ください。
5) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
6) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。
7) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
8) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
   国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
9) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。

- I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- IBM,WorkPadは、IBM Corporation.の登録商標です。
- PalmComputing,HotSyncは、PalmComputing,Inc.またはその子会社の登録商標です。
- Palm,PalmOSは、PalmComputing,Inc.またはその子会社の商標です。
- cdmaOneは、CDG（CDMA Development）の商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

安全上のご注意

ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

■警告及び注意表示

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵記号の意味



この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「発火注意」を表す絵表示



この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「分解禁止」を表す絵表示



この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「電源プラグを抜く」を表す絵表示

⚠ 警告


厳守

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守してください。


分解禁止

本製品を分解したり、改造しないでください。

火災・感電・動作不良の原因になります。
修理は弊社修理係にご依頼ください。分解したり改造した場合、保証期間内であっても有償修理となる場合があります。


電源プラグを抜く

煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

電源がある場合は、電源を切ってコンセントから電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因になります。


発火注意

本製品を取り付ける場合は、必ず本書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

- 接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。故障や動作不良の原因になります。
- 接続するコネクタやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルからの発煙や火災の原因になります。


電源プラグを抜く

本製品の取り付け、取り外し、移動の際は、必ずパソコン本体・周辺機器の電源を切り、ACコンセントを外してから行ってください。（USBおよびPCカード製品は除く）

電源コードをACコンセントに接続したまま行うと、感電・故障の原因になります。


禁止

本体を濡らしたり、お風呂場では使用しないでください。

火災・感電の原因になります。お風呂場、雨天、降雪中、海岸、水辺でのご使用は、特にご注意ください。


禁止

濡れた手で本製品を取り扱わないでください。

感電の原因になります。


厳守

落雷の恐れがある時はパソコン本体の電源を切り、パソコンおよび周辺機器の電源プラグをACコンセントから抜いてご使用をお控えください。

火災・発煙・感電・動作不良の原因になります。

電池について



電池の液が漏れたときは素手で液をさわらないでください。

電池の液が目に入ったり体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となります。

液が目に入ったとき ➡ 目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の診察を受けてください。

液が体や衣服についたとき ➡ すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



電池で以下のことにご注意ください。

液が漏れて、けがややけどの原因となります。

- 火の中に入れたり、加熱・分解・改造したり、水で濡らしたりしない
- （＋）（－）を金属類で短絡させたり、はんだ等を使用しない
- くぎを刺したり、分解・改造をしない
- ネックレスやヘヤピン等の金属と一緒に持ち運ばない
- 60℃以上の場所、車中での放置しない
- 電子レンジ・オーブンに入れない
- 定格条件以外での使用をしない



電池は乳幼児の手の届かない場所に置いてください。

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となります。

万一、飲み込んだとき ➡ ただちに医師に相談してください。

⚠ 注意


厳守

本製品のコネクタ部分や部品面には直接手を触れないでください。

静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。
また、静電気は衣服や人体からも発生するため、本製品の取り付け・取り外しは、スチールキャビネットなどの金属製のものに触れて静電気を逃がした後で行ってください。


注意

本製品を使用中にデータなどが消失した場合でも、データなどの保証は一切いたしかねます。

故障に備えて定期的にバックアップをお取りください。


禁止

本製品は以下のような場所で使用または保管しないでください。

故障の原因になることがあります。

- 振動や衝撃の加わる場所
- 直射日光のあたる場所
- 湿気やホコリが多い場所
- 温度・湿度差の激しい場所
- 熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
- 強い磁力電波の発生する物の近く
  （磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
- 水気の多い場所（台所、浴室など）
- 傾いた場所
- 本製品に通風孔がある場合は、その通風孔をふさぐような場所での使用（保管は通風孔をふさぐようにしてください。）
- 腐食性ガス雰囲気中（Cl_2、H_2S、NH_3、SO_2、NO_Xなど）
- 静電気の影響の強い場所
- 保温性・保湿性の高い（じゅうたん・カーペット・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所での使用（保管は構いません。）


禁止

本製品は精密部品です。以下のことにご注意ください。

- 落としたり、衝撃を加えない（特に電源がONになっているときは絶対に振動や衝撃を加えない）
- 本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
- 重いものを上にのせない
- 本製品のそばで飲食・喫煙などをしない


注意

本製品（ソフトウェア含む）は、日本国内仕様です。

本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポートおよびアフターサービスなどを行っておりません。あらかじめご了承ください。


注意

本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関わる設備や機器、および海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用、またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。

これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。

電池について


厳守

電池を使い切ったときや、長時間使用しないときは取り出してください。

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となります。

万一、液漏れしたときは、乾いた布などで電池ケースの周りをよく拭いてから、新しい電池をいれてください。


注意

指定した電池を正しい方向（プラス・マイナス）で入れてください。

指定以外の電池は使用しないでください（指定電池は 3 ページ【使用できる電池】を参照）。また、プラスとマイナスは正しく入れてください。間違えると、電池の液漏れや破裂などにより、火災やけが、機器破損の原因となります。

⚠ 使用上の注意

- 薬品が触れる場所や薬品のそばでの使用、保管はお避けください。故障、変色、変形の原因となります。
- 本製品の汚れは、やわらかい布に水または中性洗剤を含ませて軽くふいてください。ベンジン、シンナーなど（揮発性のもの）や薬品を用いてふいたりしますと、変形や変色の原因になることがあります。
- 本体やケーブルの上に重いものを載せたり、ケーブルを引っ張ったりしないでください。漏電や故障の原因となります。
- 内部に異物（水、コーヒーなど）が入らないようにご注意ください。
- テレビやラジオなどの強い磁界を発生する装置の近くで使用することはお避けください。本製品をラジオ、テレビジョン受信機に近接してご使用になると、受信障害の原因となります。
- 同梱のケーブルは消耗品です。ご購入時の問題以外は保証期間内であっても有償となりますのであらかじめご了承ください。
- 付属の単４形アルカリ乾電池は動作確認をしていただくためのものです。
  実際にご使用になる場合は、別途単４形アルカリ乾電池をお買い求めの上お使いください。
  また、電池の廃棄にあたっては地方自治体の条例または規則に従ってください。
- 本製品は情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づく製品です。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

もくじ

安全上のご注意 i
もくじ vii
本書の読み方 ix

1. ご使用になる前に 1
特長 1
同梱構成品 2
対応機種 3
対応通信事業者 3
使用できる電池 3

2. 基本操作について 5
各部の名称・機能 6
ケーブル 8
オプション品（別売） 9
本製品とPDA本体の接続 10
本製品と電話機の接続 12
本製品とパソコンの接続 14
電池を交換する方法 15

3. 使えるようにしよう -ソフトウェアの設定- 17
【ステップ1】本製品の設定 18
【ステップ2】インターネット接続の設定 23

4. 活用しよう 27
インターネットに接続する 28
クレードル機能を使う 29
充電機能を使う 30

5. ATコマンド一覧 31
ATコマンド（PDC） 32
ATコマンド（PHS） 43
ATコマンド（cdmaOne） 51
ATコマンド（H″,feelH″） 56

6. ふろく 65
困ったときには 65
ハードウェア仕様 69

PLANTコールセンターへのお問い合わせ 71
修理について 72

本書の読み方

本製品をはじめてお使いになる場合は、
まず【安全上のご注意】【ご使用になる前に】をご覧ください。

・本製品の注意事項を確認する	→	**安全上のご注意**（ｉページ）
・同梱物を確認する ・動作環境を確認する	→	**ご使用になる前に**（1ページ）
・本製品の各部の名称を確認する ・基本的な操作をマスターしたい	→	**基本操作について**（5ページ）
・本製品を使えるようにしたい ・PDA本体の設定方法を知りたい	→	**使えるようにしよう**（17ページ）
・インターネットに接続したい ・クレードル機能を使いたい ・充電機能を使いたい	→	**活用しよう**（27ページ）
・モデムの初期化コマンドの機能等を知りたい	→	**ATコマンド一覧**（31ページ）
・トラブルを解決したい	→	**困ったときには**（65ページ）

Memo

1．ご使用になる前に

このたびは、モバイルデータ通信アダプタ『SnapConnect 500』をお買い上げいただきありがとうございます。

特長

- **国内のあらゆる携帯電話・キャリア・サービスに対応！**
  デジタル携帯電話(PDC)・ドッチーモ・cdmaOne※・PHS※・H"(エッジ)※・feelH"(フィールエッジ)※などの携帯電話に対応しています。
  また、各社のパケット通信サービス（NTTドコモパケット通信サービス、PacketOne）にも対応しており、携帯電話・キャリア・サービスを選びません。
  ※別途オプション品の専用ケーブルをお求めください。詳しくは9ページをご覧ください。

- **安心の専用設計！**
  「軽い＆小さい」のコンパクトサイズで、モバイルに最適です。

- **クレードル機能搭載**
  本製品をパソコンのUSBポートに接続すれば純正クレードルの代わりに使用でき、「HotSync」が可能です。

- **充電機能搭載**
  本製品を経由してPDA本体への充電が可能です。純正クレードルの代わりに使用できます。

注意

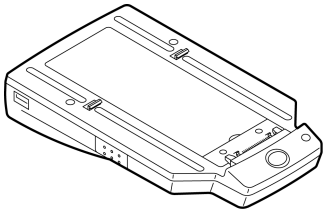
本製品はFAX機能をサポートしておりません。

同梱構成品

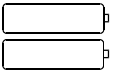
箱の中を確認します。
万が一不足品がございましたら、弊社PLANTコールセンターまでご連絡ください。

箱･梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にお使いください。

☐ **SnapConnect 500(１台)**



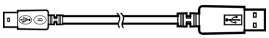
☐ **単4形アルカリ乾電池(２本)**



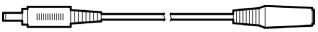
注意

同梱の乾電池は動作確認用です。ご使用の際は新しい乾電池にお取り替えください。

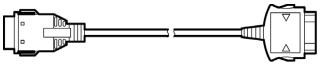
☐ **USBケーブル(１本)**



☐ **DC変換ジャック(１本)**



☐ **PDC用ケーブル(１本)**



☑ **取扱説明書(本書：１冊)**

☐ **ハードウェアシリアルNo.シール(１枚)**

☐ **ハードウェア保証書(１枚)**

☐ **ユーザー登録カード(１枚)**

cdmaOne、PHS、H″、feelH″に接続される場合

別途オプション品の専用ケーブルをお求めください。詳しくは9ページをご覧ください。

ユーザー登録について

「ユーザー登録カード」に登録方法が記載されています。
登録してから次ページへお進みください。

対応機種

（日本語Palm OS 4.0のみ対応）

メーカー	機種
パームコンピューティング	ハンドヘルド m500、m505
日本アイ・ビー・エム	WorkPad c505

対応通信事業者

電話機	メーカー	方式
デジタル携帯電話	NTTドコモ	・PDC方式デジタル （800MHz、1.5GHzタイプ：201HYPER以降） ・NTTドコモパケットデータ通信サービス ・ドッチーモ
	au	・PDC方式デジタル ・cdmaOne方式デジタル ・PacketOne
	J-PHONE	・PDC方式デジタル
PHS	NTTドコモ	・PIAFS 64/32Kbps ・ドッチーモ
	アステル	・PIAFS 32Kbps
	DDIポケット	・PIAFS 64/32Kbps （H″、feelH″、α-DATA32対応電話機）

使用できる電池

本製品では以下の電池をお使いください。

・単4形アルカリ乾電池

注意

・同梱の乾電池は動作確認していただく為のものです。
実際にご使用になる場合は、別途お買い求めの上ご使用ください。
・必ず**アルカリ電池**をお使いください。マンガン電池、充電池は使用しないでください。
・アルカリ電池の交換は、**必ず２本まとめて**行ってください。
（１本のみの交換は行わないでください。）

Memo

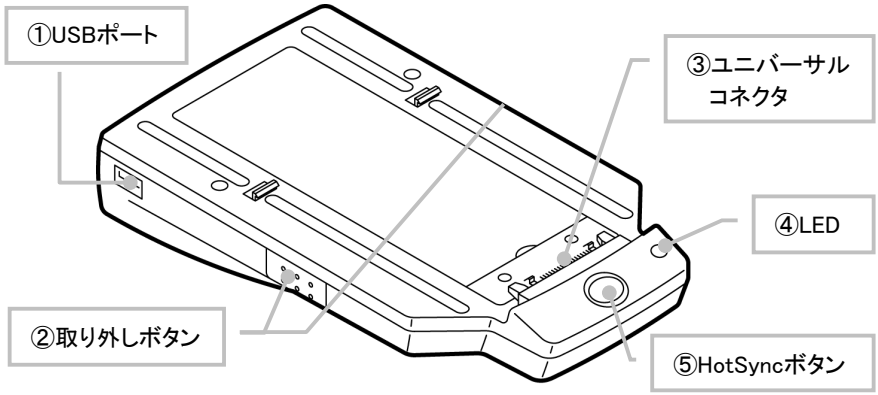
2．基本操作について

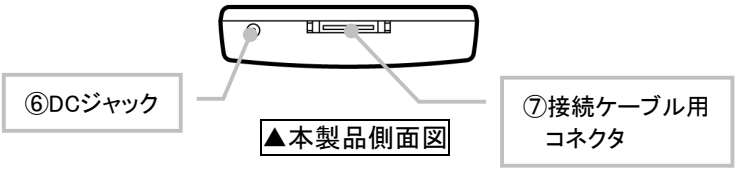
ここでは、本製品の取り扱い方法を説明します。
必要に応じたページをご覧ください。

手順	
各部の名称・機能	6ページ
ケーブル	8ページ
オプション品（別売）	9ページ
本製品とPDA本体の接続	10ページ
本製品と電話機の接続	12ページ
本製品とパソコンの接続	14ページ
電池を交換する方法	15ページ

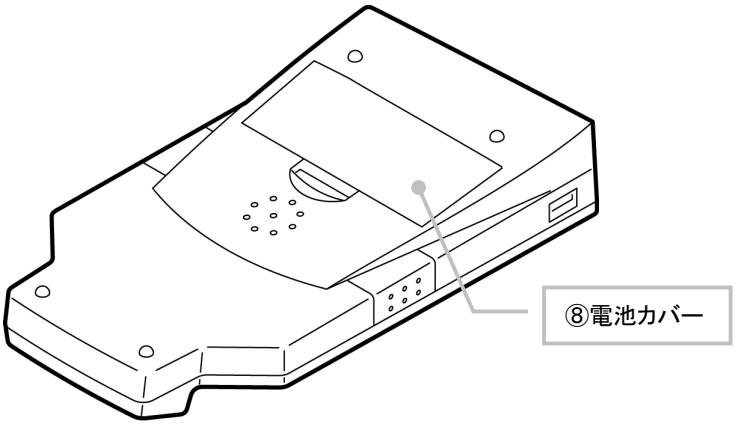
各部の名称・機能

▼本製品上面図





▲本製品側面図



▲本製品裏面図

① USBポート
同梱のUSBケーブルを使用して、パソコンのUSBポートと接続します。

② 取り外しボタン
本製品をPDA本体から取り外すときに押します。

③ ユニバーサルコネクタ
PDA本体を接続します。

④ LED
本製品の動作状況を表示します。

LED表示	表示色	本製品の状態
消灯※1	ー	動作停止
点灯	緑	待機中
	橙	(1)本製品の初期化処理中 (2)発信中
点滅	緑	データ通信中
	赤	電池の残量が少ない状態※2

※1 通信が開始されるまでLEDは点灯しません。
※2 データ通信中の場合、強制的に2分後に切断(自動切断)します。トラブルを防ぐためにも電池の早期交換をお奨めします。

⑤ HotSyncボタン
PDA本体装着時に押すと、Palm OSのHotSyncが起動します。

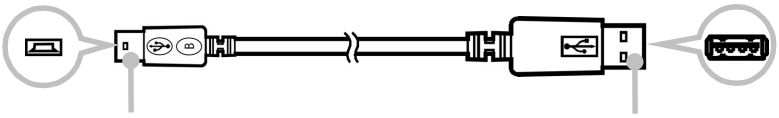
⑥ DCジャック
同梱のDC変換ジャックを使用して、ACアダプタ（PDA本体標準添付品）と接続します。

⑦ 接続ケーブル用コネクタ
使用する電話機に対応したケーブル※を接続します。
※ケーブルの形状につきましては8～9ページをご覧ください。

⑧ 電池カバー
電池交換時、電池カバーを開きます。

ケーブル

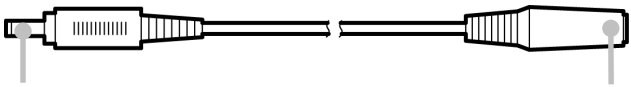
USBケーブル（⇒使い方は14ページ参照）



ミニBコネクタ
本製品のUSBポート(①)と接続

Aコネクタ
パソコン本体のUSBポートへ接続

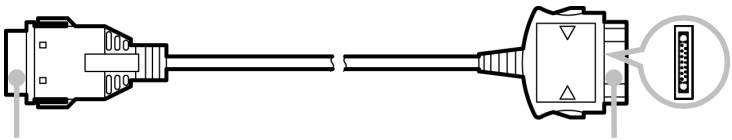
DC変換ジャック（⇒使い方は29ページ参照）



本製品のDCジャック(⑥)と接続

ACアダプタ(PDA本体標準添付)へ接続

PDC(ドッチーモ含む)用ケーブル（⇒使い方は12ページ参照）



本製品の接続ケーブル用
コネクタ(⑦)と接続

電話機のデータ通信コネクタへ接続
（下記注意参照）

注意

1) 電話機に接続する場合は、コネクタの向き（裏表）に注意して接続してください※。無理に入れようとすると故障の原因になります。
※電話機に対し付属ケーブルのコネクタを裏側にして接続する場合があります。
2) ケーブルは消耗品です。ご購入時の問題以外は保証期間内であっても有償となります。あらかじめご了承ください。
3) 本製品はPDC用ケーブルのみ添付しています。
cdmaOne、PHS、H″、feelH″に接続する場合は別途オプション品の専用ケーブルをお求めください。
（⇒次ページ参照）

オプション品（別売）

cdmaOne用ケーブル　OP9664-CDMA



本製品の接続ケーブル用
コネクタ(⑦)と接続

電話機のデータ通信コネクタへ接続
（前ページ「注意」参照）

H″・feelH″ &α-DATA32対応電話機(DDIポケット)用ケーブル　OP9664-H



本製品の接続ケーブル用
コネクタ(⑦)と接続

電話機のデータ通信コネクタへ接続
（前ページ「注意」参照）

PHS(NTTドコモ、アステル)用ケーブル　OP9664-PHS



本製品の接続ケーブル用
コネクタ(⑦)と接続

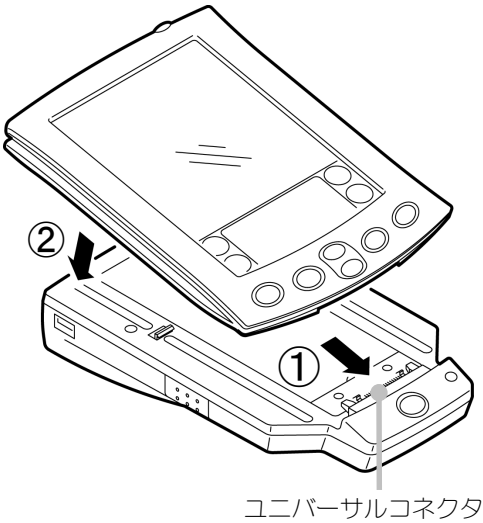
電話機のデータ通信コネクタへ接続
（前ページ「注意」参照）

本製品とPDA本体の接続

● 取り付ける

①本製品の「ユニバーサルコネクタ」にPDA本体を斜め上から差し込みます。

②PDA本体を本製品に押し付けます。
カチッと音がするまでしっかり押し付けてください。



参考

LEDの点灯について
上記手順にしたがって本製品を取り付けますが、装着しただけではLEDは点灯しません。LEDは通信中および通信後に点灯または点滅します。
⇒詳しくは6ページ【各部の名称・機能】「④LED」をご覧ください。

● 取り外す

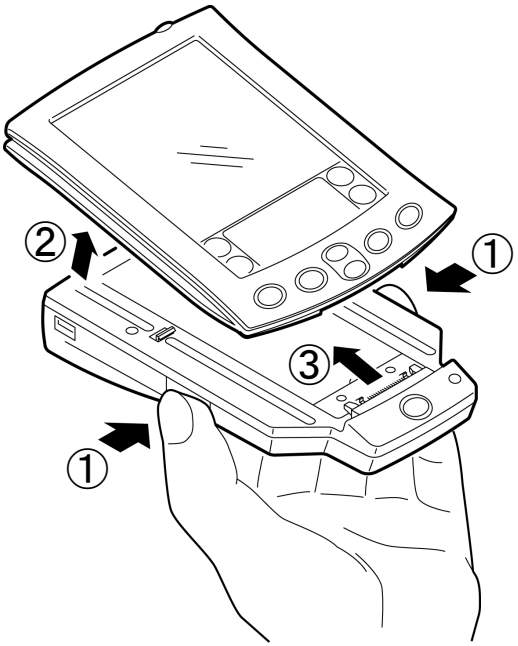
①本製品を片手で持ち、両側面の取り外しボタンを押します。

注意

・PDA本体の電源が切れていることを確認してください。
・両側面の取り外しボタンをしっかり押して取り外してください。

②（取り外しボタンを押し続けた状態で）PDA本体上部を本製品から少し持ち上げます。

③PDA本体を本製品から斜め上へ引っ張って外します。

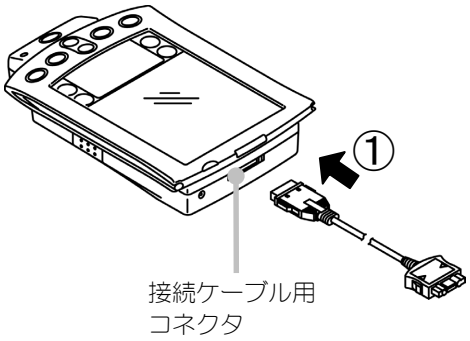


本製品と電話機の接続

● 取り付ける

①お使いの電話機に合った接続ケーブルを本製品の「接続ケーブル用コネクタ」に接続します。

▼PDC用ケーブルの接続例

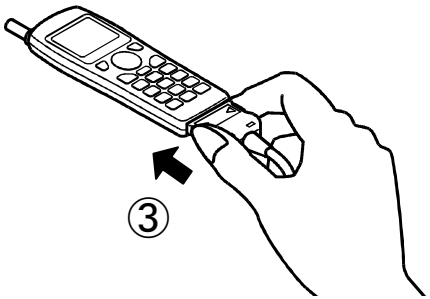


②電話機の接続コネクタに付いているカバーを開けます。

電話機の接続コネクタの位置は電話機の取扱説明書をご覧ください。
カバーが取り外せる場合、カバーをなくさないように保管してください。

③電話機の接続コネクタに、本製品に取り付けたケーブルを接続します。

カチッと音がするまで差し込んでください。



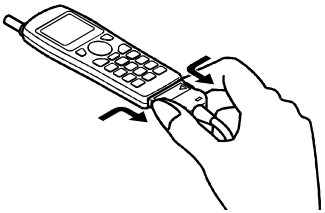
注意

コネクタの向きに注意して差し込んでください。
入りにくい時は無理に入れずに向きを確認してください。

● 取り外す

①まず、電話機から接続ケーブルを取り外します。

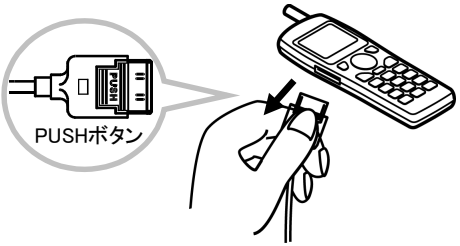
▼PDC用ケーブルの取り外し例



●PDC用ケーブル（同梱）、cdmaOne用ケーブル（別売）をお使いの場合
接続ケーブルのコネクタ左右にあるボタンを押しながら、まっすぐに抜いてください。

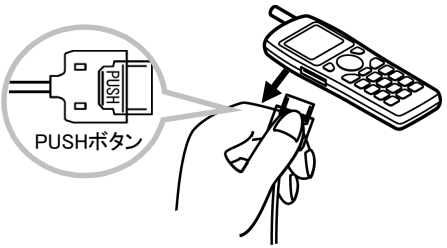
●H″・feelH″＆α-DATA32対応電話機（DDIポケット）用ケーブル（別売）をお使いの場合
接続ケーブルのコネクタにある「PUSH」ボタン※を押しながら、まっすぐに抜いてください。
※電話機に対して、接続ケーブルの「PUSH」ボタンが裏側になる場合があります。

▼H″・feelH″＆α-DATA32対応電話機用ケーブルの取り外し例

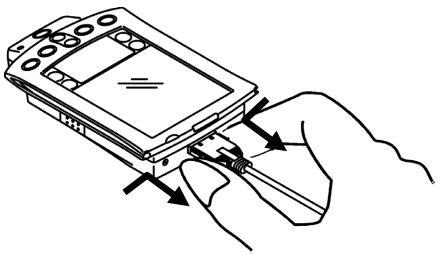


●PHS(NTTドコモ、アステル)用ケーブル（別売）をお使いの場合
接続ケーブルのコネクタにある「PUSH」ボタン※を押しながら、まっすぐに抜いてください。
※電話機に対して、接続ケーブルの「PUSH」ボタンが裏側になる場合があります。

▼PHS用ケーブルの取り外し例



②本製品から接続ケーブルを取り外します。
接続ケーブルのコネクタ左右にあるボタンを押しながら、まっすぐに引き抜きます。

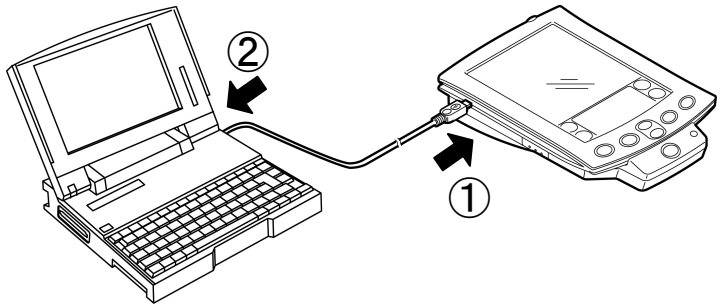


本製品とパソコンの接続

● 取り付ける

①同梱のUSBケーブルの「ミニBコネクタ」（小さい方）を本製品のUSBポートに接続します。

②USBケーブルの「Aコネクタ」（大きい方）をパソコンのUSBポートに接続します。
接続は、パソコンの電源が入っている状態でも入っていない状態でも可能です。



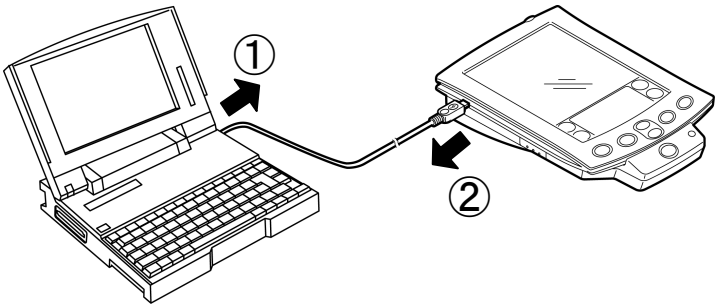
注意

・USBコネクタは差し込む向きが決まっています。入りにくいときは無理に差し込まず、コネクタの向きを確認してください。
・パソコン（またはUSBハブ）のUSBポートの位置は、お使いの機器の取扱説明書を参照してください。

● 取り外す

①パソコンのUSBポートからUSBケーブルを抜いてください。
取り外しは、パソコンの電源が入っている状態でも入っていない状態でも可能です。

②本製品のUSBポートからUSBケーブルを抜いてください。

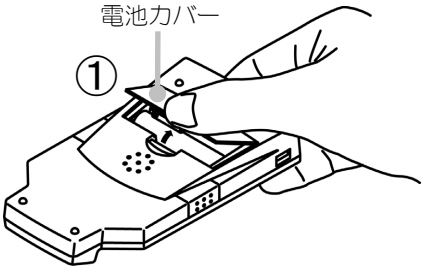


電池を交換する方法

● 電池を取り出す

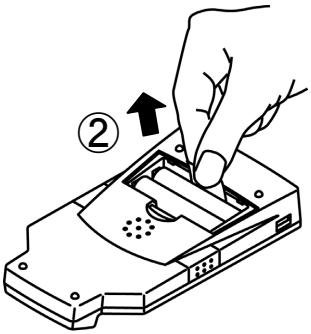
①本製品裏面の「電池カバー」を開けます。

電池カバーのツメ部分を使って開けます。



②リボンの端を手前に引っ張ります。

乾電池を１本取り出すことができます。

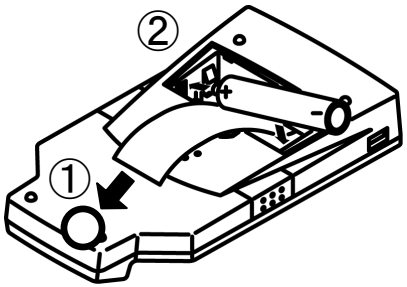


③残りの乾電池１本を取り出します。

乾電池を入れる方法は、次ページをご覧ください。

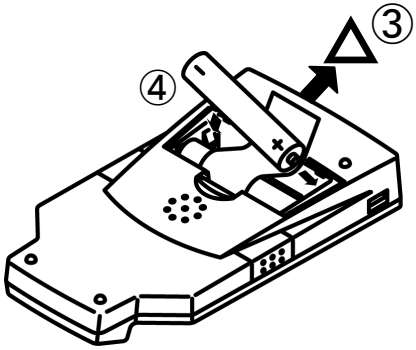
● 電池を入れる

①リボンを矢印の方向（右図〇の方向）に引きます。



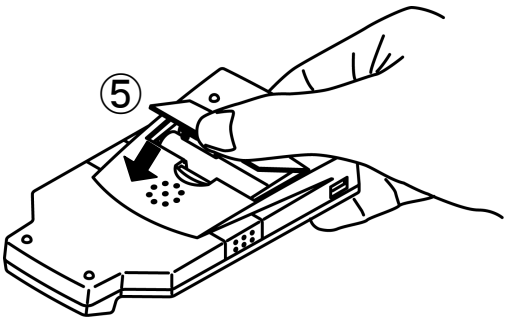
②リボンを引いた方向側のソケットに1本目の乾電池を入れます。
入れるときは電池の向きに注意し、＋側から入れてください。

③リボンを①と反対側（右図△の方向）に引きます。
②で入れた乾電池の上に被せるようにリボンを反対側に引きます。



④リボンの上から2本目の乾電池を入れます。
入れるときは電池の向きに注意し、＋側から入れてください。

⑤電池カバーを閉めます。



注意

・同梱の乾電池は動作確認していただく為のものです。
実際にご使用になる場合は、別途お買い求めの上ご使用ください。
・必ず**アルカリ電池**をお使いください。マンガン電池、充電池は使用しないでください。
・アルカリ電池の交換は、**必ず２本まとめて**行ってください。
（１本のみの交換は行わないでください。）

3．使えるようにしよう -ソフトウェアの設定-

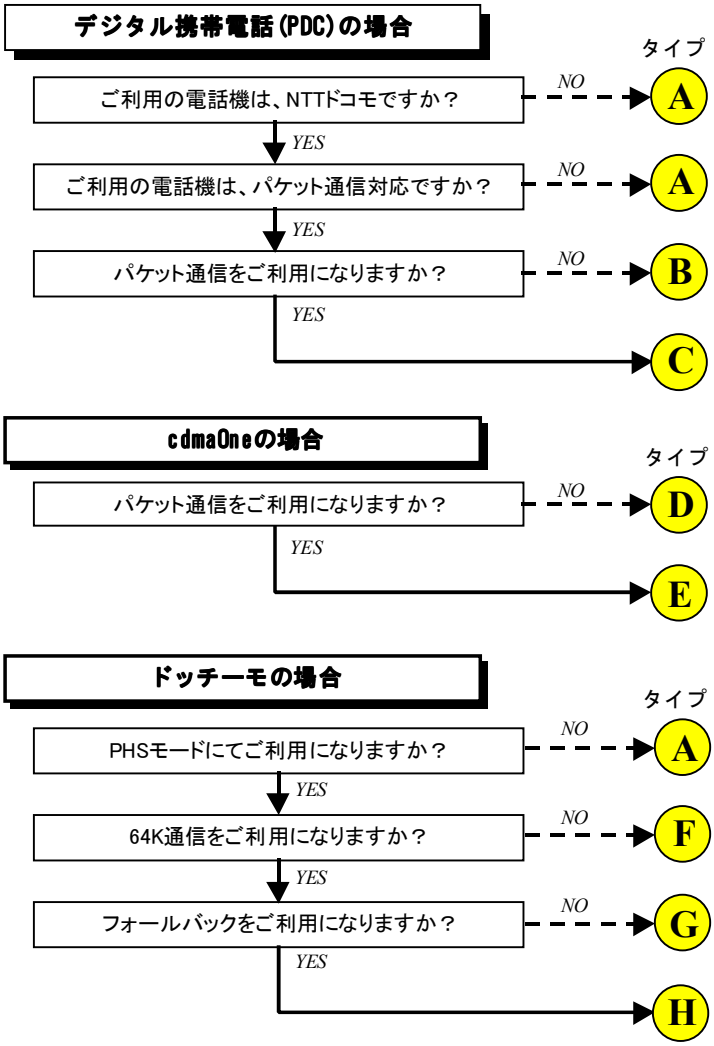
ここでは、本製品でインターネットに接続するための設定方法を説明します。
以下の手順にしたがいお進みください。

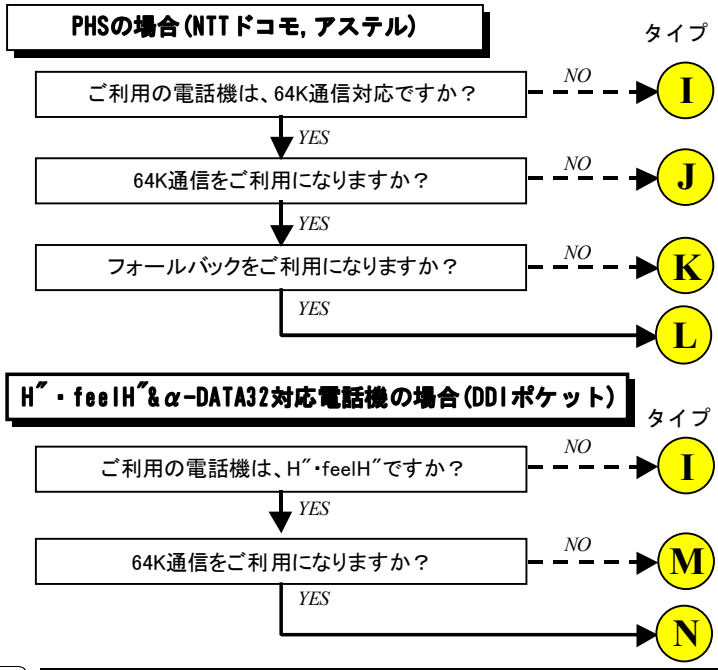
手順	
【ステップ1】本製品の設定	18ページ
【ステップ2】インターネット接続の設定	23ページ

【ステップ *1*】本製品の設定

1 通信方式を判別します。

お使いの電話機や接続先により通信方式が異なります。
これから行う通信方式と必要な設定を以下のフローチャートにて判別します。タイプが決定しましたら、20ページの表をご覧ください。





参考

フォールバックとは

通信状況などにより、指定した速度（PIAFS 64K）で通信できない場合、自動的に速度を落として（PIAFS 32K）通信する機能を「フォールバック」といいます。フォールバックしない場合、指定速度で通信できない場合は、通信不可となります。

NTTドコモパケット通信をご利用の場合

・接続先の電話番号はNTTドコモのパケット通信サービス対応電話番号をご利用ください。
・電話機はNTTドコモパケット通信サービス対応電話機（NTTドコモ208i,209i,210i,211i,30xシリーズ）をご利用ください。

cdmaOneにてパケット通信をご利用の場合

・電話機側の設定で通信モードを「Packet 9.6Kbps/14.4Kbps/High」にする必要があります。
・接続先の電話番号はauのパケット通信対応電話番号をご利用ください。
・PacketOne(64K)をご利用の場合は、別途高速パケットサービスの契約が必要です。詳しくはau電話取扱店へお問い合わせください。

PIAFS 2.0/2.1(64K通信)をご利用の場合

・接続先がPIAFS 2.0/2.1(64K)に対応していることをご確認ください。
・接続先がPIAFS 2.0/2.1(64K)に対応していない、またはご利用の場所がPIAFS1.0に対応している場合は、PIAFS 1.0(32K)で接続してください。

ご利用の通信方式はどのタイプでしたか？
以下の表のチェック欄に、当てはまるタイプをチェックしましょう。

チェック	タイプ	通信方式	通信速度 (Kbps)	電話番号 追加設定	ATコマンド 追加設定
	A	PDC	9.6		
	B	PDC	9.6	J	
	C	NTTドコモパケット通信	28.8/9.6		
	D※	回線交換	14.4/9.6	J	
	E※	PacketOne	64/14.4/9.6		
	F	PIAFS1.0	32	#32	#CLS=3
	G	PIAFS2.0	64		#CLS=3
	H	PIAFS2.0	64/32		#CLS=3S142=1
	I	PIAFS1.0	32		
	J	PIAFS1.0	32	#32	
	K	PIAFS2.0	64		
	L	PIAFS2.0	64/32		S142=1
	M	PIAFS1.0	32	##3	
	N	PIAFS2.1	64		

※ 通信方式、通信速度の切替を電話機で行ってください。



接続先の電話番号が通信方式に対応していることをご確認ください。

DDIポケットの電話機について

DDIポケットの電話機の一部（Panasonic製など）において、電話機側の設定で「データ通信用ケーブル」をOFFにする必要があります。

H"・feelH"、PHSの電話機について

電話機側の設定で「公衆モード」にする必要があります。
その他のモードでの使用は保証しておりません。

2 PDA本体（Palm OS）に本製品の設定を行います。

⇒画面例は次ページ参照

①［環境設定］をタップして、画面右上のメニューから［接続］を選択します。

②［使用できる設定］で［新規］ボタンをタップします。

③ 以下を設定して、［詳細］ボタンをタップします。

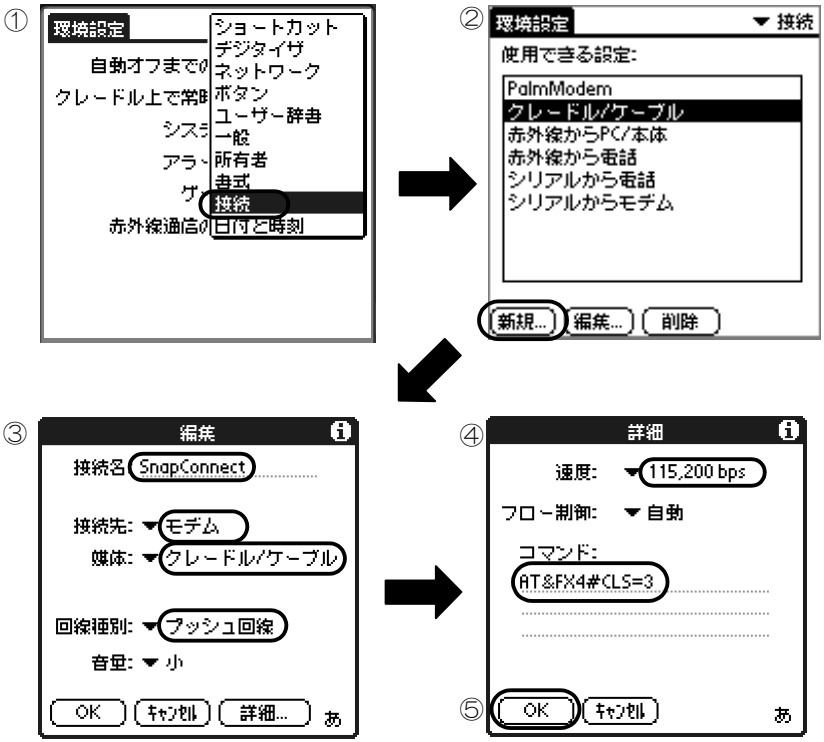
- ［接続名］ ― 任意の名称を入力
- ［接続先］ ―［モデム］を選択
- ［媒体］ ―［クレードル/ケーブル］を選択
- ［回線種別］―［プッシュ回線］を選択

④ 以下を設定して、［OK］ボタンをタップします。

- ［速度］ ―［115,200bps］を選択
  ※1,200～115,200bpsで設定が可能です。
- ［コマンド］―「AT&FX4」と入力
  ※【ステップ1：本製品の設定】(18ページ)にて
  タイプが F,G,H,Lの場合、コマンドの末尾に下表の「ATコマンド追加設定」の追加入力が必要です。
  （例：タイプがF,Gの場合は「AT&FX4#CLS=3」と入力）

タイプ	通信方式	ATコマンド追加設定
F	PIAFS1.0	#CLS=3
G	PIAFS2.0	#CLS=3
H	PIAFS2.0	#CLS=3S142=1
L	PIAFS2.0	S142=1

⑤ 設定後、［OK］ボタンをタップします。



▲画面例　　▲追加設定した画面例

以上で、本製品の設定は完了です。

【ステップ2】インターネット接続の設定

本作業は、【ステップ1：本製品の設定】の作業後に行ってください。

1 環境設定のネットワークを開きます。

［環境設定］をタップして、画面右上のメニューから［ネットワーク］を選択します。

2 ネットワークの設定をします。

① ［サービス］ ― 接続するプロバイダ名等（任意）を入力
② ［ユーザ名］― 接続するプロバイダの接続アカウント（ログイン名）を入力
③ ［パスワード］をタップします。
⇒パスワード画面が表示されますので、接続するプロバイダのパスワードを入力し、［OK］ボタンをタップします。
④ ［接続］がある場合は、【ステップ1：本製品の設定】の手順**2**（21ページ）で設定した［接続名］を選択します。
⑤ ［電話番号］をタップします。
⇒ダイヤルの設定画面が表示されます。
（次ページ手順**3** へお進みください。）



▲画面例



▲パスワード画面例

参考

パケット通信を行う場合や接続先電話番号が通信事業者専用の場合、ユーザ名、パスワードの入力方法に特有のきまりがある場合があります。詳しくは通信事業者やプロバイダの案内でご確認ください。

3 ダイヤルの設定をします。

①［電話番号］― プロバイダの接続先電話番号を市外局番から入力

※【ステップ1：本製品の設定】（18ページ）にて

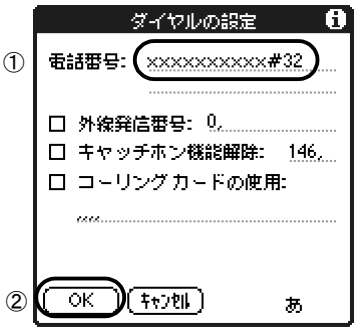
タイプがB, D, F, J, Mの場合、電話番号の末尾に下表の「電話番号追加設定」の追加入力が必要です。

他の項目は、全てチェックしないでください。

② 設定後［OK］ボタンをタップします。

⇒環境設定の画面が表示されます。

（手順 4 へお進みください。）



▲追加設定した画面例

タイプ	通信方式	電話番号追加設定
B	PDC	J
D	回線交換	J
F,J	PIAFS1.0	#32
M	PIAFS1.0	##3

参考

入力する電話番号は、ご利用の電話機や通信方式によって異なります。
正しい電話番号については、プロバイダにお問い合わせください。
通信方式については、20ページの表をご覧ください。

4 ［詳細］ボタンをタップします。



5 詳細を設定します。

① ［接続タイプ］　—「PPP」を選択

② ［切断までの時間］—「なし」を選択

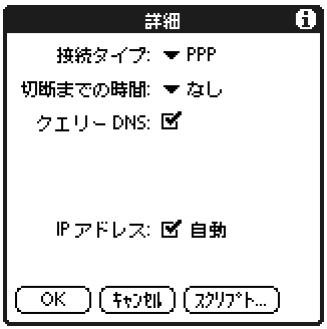
③-a **プロバイダからプライマリDNS、セカンダリDNSを案内されていない**

⇒［クエリーDNS］をチェックします。

③-b **プロバイダからプライマリDNS、セカンダリDNSを案内されている**

⇒［クエリーDNS］のチェックを外し、プライマリDNS、セカンダリDNSの値を入力します。

④ 設定後［OK］ボタンをタップします。



▲③-aの画面例



▲③-bの画面例

以上で、インターネット接続の設定は完了です。

Memo

4．活用しよう

ここでは、本製品でインターネットに接続するための設定方法を説明します。
以下の必要な個所をご覧ください。

手順	
インターネットに接続する	28ページ
クレードル機能を使う	29ページ
充電機能を使う	30ページ

インターネットに接続する

本作業は、【ステップ2：インターネット接続の設定】(23ページ)の作業後に行ってください。

1 環境設定のネットワークを開きます。

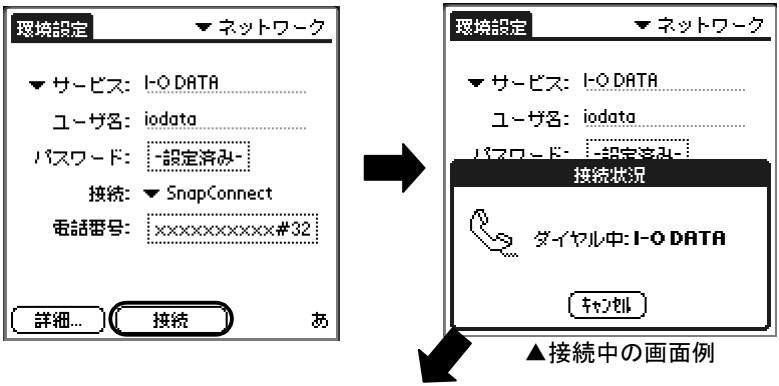
［環境設定］をタップして、画面右上のメニューから［ネットワーク］を選択します。

2 電話機の電源が「入(オン)」になっていることを確認します。

電波感度が良好な場所にてご確認ください。

3 ［接続］ボタンをタップします。

接続状況画面が表示され、インターネットに接続します。



▲接続中の画面例



▲接続後の画面例

クレードル機能を使う

本製品を経由して「HotSync」が可能です。

● 用意するもの

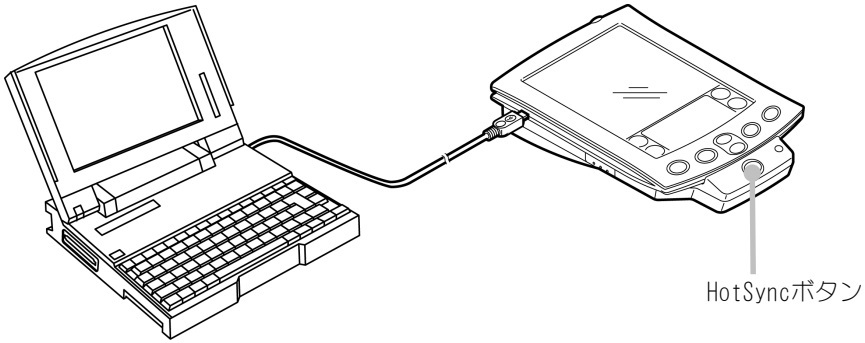
・同梱のUSBケーブル

● 取り付け方法

①本製品にPDA本体を取り付けます。
⇒取付方法は【本製品とPDA本体の接続】（10ページ）参照

②本製品をパソコンに接続します。
⇒取付方法は【本製品とパソコンの接続】（14ページ）参照

③本製品の「HotSyncボタン」を押すと、「HotSync」を行うことができます。
※「HotSyncボタン」を押す前に、パソコンが起動して「HotSync」が可能な状態になっていることをご確認ください。



参考

「HotSync」の設定方法、「HotSync」を実行する前にパソコンで必要な準備等につきましては、PDA本体の取扱説明書をご覧ください。

注意

本製品を使用してデータ通信をする際は、上記のクレードル機能を使ったときに接続したUSBケーブルは取り外してください。

充電機能を使う

本製品を経由してPDA本体を充電します。

● 用意するもの

・同梱のDC変換ジャック
・ACアダプタ（PDA本体標準添付品）

● 取り付け方法

①本製品にPDA本体を取り付けます。
⇒取付方法は【本製品とPDA本体の接続】（10ページ）参照

②同梱の「DC変換ジャック」を本製品の「DCジャック」に接続します。

注意

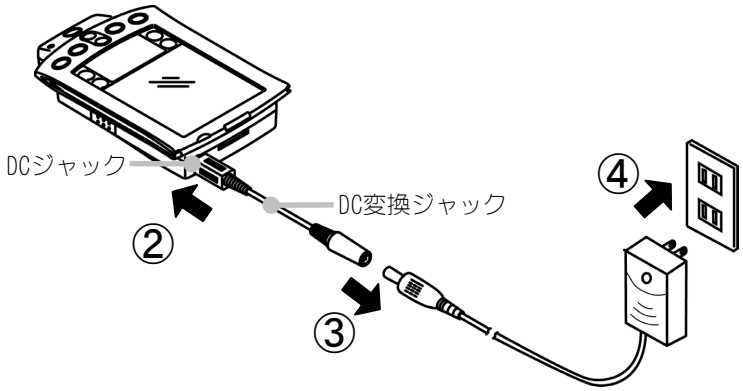
接続するコネクタを間違えないようご注意ください。

③同梱の「DC変換ジャック」をACアダプタ（PDA本体標準添付品）に接続します。

注意

ACアダプタは、PDA本体標準添付品以外は使用しないでください。
標準添付品以外のACアダプタを使用すると故障の原因になります。

④ACアダプタ（PDA本体標準添付品）をACプラグに接続します。
⇒PDA本体を充電します。



5．ATコマンド一覧

ご使用の通信ソフトによっては、通信ソフト側で「モデムの初期化コマンド」を新たに設定する必要があります。モデム初期化コマンドは、ご使用の通信ソフトのパラメータ設定画面で入力します。

使用する通信ソフトの製品ごとに「モデムの初期化コマンド」の設定方法（以下の[ATコマンド]による設定等）が異なります。詳細は通信ソフトの取扱説明書をご覧ください。

[ATコマンド]

モデムの設定等を行うコマンドです。

ATコマンドのフォーマットは以下の形式になります。



1. コマンドとパラメータは１行に複数指定できます。
2. LFコードは省略することができます。
3. ご使用のキーボードに[¥]キーがない場合は[＼]を使用してください。

1 ATコマンド（PDC）

（1）《データモードATコマンド》

コマンドの()内は初期値
◎：&Wコマンドで不揮発性メモリに保存します。

コマンド	機能	パラメータ
A/	コマンド再実行(ATは付加しない)	ー
A	手動着信	ー
◎Bn n=(0),1	モデムの規格を選択 （2400bps電話機使用時は無視）	0：ITU-T規格、V.22/V.21 1：BELL規格、212A/103
Dn	ダイヤル発信	省略：電話機より電話番号を入力 0～9,#,*,A,B,C,D：電話番号 [-],[SP],[(],[)]：電話番号の区切りとして使用可能 ;：ダイヤル後、コマンド待ち ,：ダイヤルー時停止（S8レジスタの指定時間ダイヤルを停止） L：直前の電話番号をリダイヤル S=n：AT&Zn で設定した電話番号をダイヤル W：S7レジスタの指定時間、ダイヤルトーンを待つ（ダイヤルトーンを検出できなければON HOOK） P：無視 T：無視 I：パケット対応電話機の場合、パケット通信を行う J：データ通信を行う ATD：(ﾀﾞｲﾔﾙなし)：電話機より電話番号を入力する。
◎En n=0,(1)	コマンドエコー	0：エコーなし 1：エコーあり

コマンド	機能	パラメータ
◎Fn n=(0)	公衆回線接続モード （2400bps電話機使用時は無視）	0：自動モード検出 1：V.21/BELL103 (300bps) 3：V.23ライン変調 送信75bps/受信1200bps) 4：V.22/BELL212A (1200bps) 5：V.22bis (2400bpsライン変調) 6：V.32bis/V.32 (4800bpsライン変調) 7：V.32bis (7200bpsライン変調) 8：V.32bis/V.32 (9600bpsライン変調) 9：V.32bis (12000bpsライン変調) 10：V.32bis (14400bpsライン変調)
Hn n=0,1	Hookスイッチ	0：HOOK ON 1：HOOK OFF
In n=3	製品コード/バージョンの表示	3：バージョン番号
O	オンラインモード切り替え	ー
◎Qn n=(0),1	リザルトコード表示	0：リザルトコードあり 1：リザルトコードなし
Sn=x	nで指定したSレジスタに値xを設定	（n,xはSレジスター覧を参照）
Sn?	nで指定したSレジスタの値を表示	（nはSレジスター覧を参照）
◎Un n=(0),1, 2,3	発着信番号表示の設定 （ATQ0,ATV1,AT¥V0またはAT¥V2の場合に有効）	0：発着信番号表示なし 1：発信番号表示あり、着信番号表示なし 2：発信番号表示なし、着信番号表示あり 3：発着信番号表示あり
◎Vn n=0,(1)	リザルトコードの表示形式	0：数字形式 1：文字形式
◎Wn n=(0),1, 2,3	接続時のリザルトコード表示内容	(回線速度),(プロトコル表示),(シリアル速度表示)　　****は速度表示 n=0:(-),(-),(CONNECT ****) n=1:(CARRIER ****),(PROTOCOL:ALT), (CONNECT ****) n=2:(CONNECT ****),(-),(-) n=3:(-),(-),(CONNECT ****/REL)

コマンド	機能	パラメータ
◎Xn n=0,1,2, (3),4	ダイヤルトーン・ビジートーン検出及び速度表示（ダイヤルトーンを5秒以内に検出できない場合、「NO DIALTONE」を表示しダイヤルしない）	0：トーン検出、速度表示なし 1：速度表示あり 2：ダイヤルトーン検出、速度表示あり 3：ビジートーン検出、速度表示あり 4：トーン検出、速度表示あり
Zn n=0,1,2, 3,4,5,6	アダプタのリセット（通信中の場合、呼の切断も行う。複数コマンドをまとめて入力した場合、Zコマンド以降のコマンドは無視される）	0：&Wの保存値で初期化 1：MNP4　AT¥N5¥Q3%C0)M0-Q0¥X1 設定 2：MNP5　AT¥N5¥Q3%C1)M0-Q0¥X1 設定 3：MNP10　AT¥N3¥Q3%C3)M1-Q1¥X0 設定 4：V.42　AT¥N4¥Q3%C0)M0-Q0¥X1 設定 5：V.42bis　AT¥N4¥Q3%C2)M0-Q0¥X1 設定 6：ノーマルモード AT¥N0¥Q3%C0)M0-Q0¥X1 設定
◎&Cn n=0,(1)	CD信号出力設定	0：常時ON 1：データリンク中ON
◎&Dn n=0,1, (2),3	ER信号制御	0：無視 1：OFFでエスケープモード 2：OFFで回線を切断 3：OFFでリセット
&F	初期化	ー
◎&Kn n=0,(3), 4,	フロー制御	0：フロー制御なし 3：RS/CSフロー制御 4：XON/XOFFフロー制御
&P	接続電話機番号表示	
◎&Sn n=(0),1, 2	DR信号出力設定	0：常時ON 1：ハンドシェーク開始時ON、回線断でOFF 2：ハンドシェーク終了時ON、回線断でOFF
&V	現在の設定値とメモリに保存されている値を表示	
&W	現在の設定値を不揮発メモリに保存	ー
◎&Zn=x n=0～19, 99	最大35桁の電話番号xをメモリに保存	0～19：指定メモリに電話番号xを登録、 x省略時電話番号を消去 99：全メモリの電話番号を一括消去
◎¥An n=0,1,2, (3)	最大MNPブロックサイズ設定（2400bps電話機使用時、n=3）	0：64バイト 1：128バイト 2：192バイト 3：256バイト

コマンド	機能	パラメータ
¥Bn n=0, 1, 2, (3), 4～9	ノーマルモード時ブレーク信号送出 （MNPモード時LNフレーム送出）	1～9：ブレーク信号長100～900ms
◎¥Cn n=0, 1, (2)	オートリライアブルバッファ機能 （2400bps電話機使用時は無視）	0：なし 1：あり 2：なし、フォールバックキャラクタ機能あり
◎¥Gn n=(0), 1	モデム間XON/XOFFフロー制御 （2400bps電話機使用時は無視）	0：なし 1：あり
◎¥Kn n=0, 1, 2, 3, 4, (5)	ブレーク信号受信時の動作 （n=0, 2, 4を選択した場合、それぞれn=1, 3, 5を設定する）	0, 1：バッファクリア後、端末装置にブレーク信号送出 2, 3：端末装置にブレーク信号送出 4, 5：バッファデータ送出後、端末装置にブレーク信号送出
◎¥Nn n=0, 2, (3), 4, 5	動作モード （2400bps電話機使用時、n=5）	0：ノーマルモード 2：リライアブルモード 3：オートリライアブルモード 4：LAPMエラー訂正モード 5：MNP4エラー訂正モード
◎¥Qn n=0, 1, (3)	端末装置と本装置間のフロー制御	0：フロー制御なし 1：XON/XOFFフロー制御 3：RS/CSフロー制御
¥S	設定値の表示	ー
◎¥Tn n=(0), 1～60	無通信監視タイマ値設定	0：監視なし 1～60：監視時間1～60分
◎¥Xn n=(0), 1	オートリライアブルモード時の設定 （2400bps電話機使用時、n=1）	0：MNP10を使用する 1：MNP10を使用しない
◎%An n=(0), 1～127	フォールバックキャラクタ設定 （2400bps電話機使用時は無視）	0：設定しない 1～127：10進ASCIIコードを設定

コマンド	機能	パラメータ
◎%Cn n=0,1,2, (3)	データ圧縮機能 （2400bps電話機使用時、 n=0）	0：圧縮なし 1：MNP5 2：V.42bis 3：V.42bis及びMNP5
◎%En n=0,1, (2),3	回線モニタリング、リトレーニング （2400bps電話機使用時は無視）	0：なし 1：あり 2：あり、フォールバック／フォールフォワードなし 3：あり、フォールバック／フォールフォワードあり
◎#Cn n=(0),1	通信終了時の通信料金表示	0：表示なし 1：表示あり
◎#CLS=n n=0,1, (2),3	PDC/PHS選択	0：データ通信モード 1：0の場合と同じ 2：パケット通信モード 3：PHS通信モード(PDC I/Fを使用するPHS対応電話機)
◎#Dn n=0,(1)	電話番号通知	0：通知しない 1：通知する
◎#In n=(0),1	相手（発信・着信）番号を表示	0：表示しない 1：表示あり なし:直前の通信相手の電話番号を表示
◎#Nn n=(0) 1,2,3	自動着信時、着信拒否	0：着信拒否しない 1：着信拒否する 2：着信許可番号ならば着信する 着信許可番号以外または、通信相手からの電話番号の通知がない場合、着信拒否 3：着信許可番号ならば着信する 着信許可番号以外または、通信相手からの電話番号の通知がない場合、着信拒否しない
#SBn	#Dに同じ	#Dに同じ
◎#Tn=x n=0～19	着信許可番号 （最大20件） ([-],[SP],[(],[)]を除いた着信許可番号保存）	n=0～19：nで指定したパラメータに着信許可番号Xを保存する 「x」を省略した場合、nで指定したパラメータの内容を消去する n=99　：保存されている着信許可番号を一括消去する

コマンド	機能	パラメータ
◎-Qn n=0,(1)	V.22/V.22bisへのフォールバック （2400bps電話機使用時, n=0）	0：使用しない 1：使用する
◎*Hn n=(0),1, 2	MNP10リングネゴシエーション速度（2400bps電話機使用時は無視）	0：最高速 1：1200bps 2：4800bps
◎)Mn n=0,(1)	MNP10リングネゴシエーション調整 （2400bps電話機使用時、 n=0）	0：パワー調整を行わない 1：パワー調整を行う
◎:En n=0,(1)	MNP10固定等価器の有無 （2400bps電話機使用時は無視）	0：固定等価器を使用しない 1：固定等価器を使用する
+MNP=n n=(0),1	データ通信モード （高速データ通信対応電話機使用時にn=1を指定すると、MNP4 2400bps通信モードとして動作）	0：自動選択 1：MNP2400通信モード

（2）《Sレジスタ》

◎S0	着信モード設定	(0)：手動着信 1～15：RING1～15回で自動着信
◎S2	エスケープシーケンスの文字コード	0～127（43：'+'）
S3	キャリッジリターンの文字コード	0～127（13：CR）
S4	ラインフィードの文字コード	0～127（10：LF）
S5	バックスペースの文字コード	0～32（8：BS）
◎S7	ダイヤル終了後、キャリア検出までの待ち時間	1～57（50）単位：秒
◎S8	Dコマンドにおける「,」の一時停止時間	0～255（2）単位：秒
◎S12	エスケープ・コード入力の前後に必要な遅延時間	0～255（50）単位：1/50秒
S23	ビットマップレジスタ（Read Only）	0～255(27) Bit2,1,0=000:DTEスピード　300bps 010:DTEスピード　1200bps 011:DTEスピード　2400bps 100:DTEスピード　4800bps 101:DTEスピード　9600bps 110:DTEスピード 19200bps 111:Bit5,6,7を有効にする Bit4,3=00:偶数パリティ 10:奇数パリティ 11:ノンパリティ Bit7,6,5=000:DTEスピード　7200bps 001:DTEスピード 12000bps 010:DTEスピード 14400bps 011:DTEスピード 38400bps 100:DTEスピード 57600bps 101:DTEスピード115200bps
◎S25	ER信号OFF検出時間	0～255（5）単位：10ミリ秒
S32	XONキャラクタコード	0～255（17）
S33	XOFFキャラクタコード	0～255（19）

◎S37	ライン接続スピード	(0)：自動応答 1：300bps 5：1200bps 6：2400bps 7：75bps(Send)/1200bps(Receive) 8：4800bps 9：9600bps 10：12000bps 11：14400bps 12：7200bps
◎S38	強制切断指示時のデータ保証時間	0～255（20）単位：秒
◎S46	データ圧縮制御	136：圧縮しない (138)：圧縮する
◎S48	V.42ネゴシエーション制御	0：LAPM制御 (7)：ネゴシエーションを行う 128：MNP接続
◎S51	回線切断	(0):回線切断 1～254:1～254秒後に音声モードへ移行 255:回線切断
S86	接続失敗時の原因コード（Read Only）	(0)：正常切断 2：MNPハンドシェーク失敗 9：プロトコル設定失敗 12：相手からの正常切断 13：応答なし 14：プロトコルエラー 17：無通信監視タイムオーバー

◎S93	DTE速度初期値設定 （10進数で値を設定する） 0～15：(偶数パリティ) 100～115：(奇数パリティ) 200～215：(パリティなし)	設定値=(パリティ指定番号×100)＋DTE速度指定番号 （初期値=213） 0：初期値なし 1：Reserved 2：Reserved 3：Reserved 4：Reserved 5：1200 6：2400 7：4800 8：7200 9：9600 10：14400 11：19200 12：28800 13：38400 14：57600 15：115200 パリティ 0：偶数パリティ 1：奇数パリティ 2：パリティなし
◎S111	スタンバイモードへの移行時間指定	(0)：低消費電力モードには移行しない 1～255：時間（単位：秒）

注）・ ◎付きレジスタは&Wコマンドで不揮発性メモリに保存します。
・ S23, S86, S88レジスタは読み取り専用です。
・ S12レジスタの値を0にするとエスケープモードへは移行できません。
・ 範囲外の値が入力された場合は正しく設定されない場合があります。
・ 未サポートレジスタが指定された場合の値は設定されません。
未サポートレジスタには値を入力しないでください。

（3）《リザルトコード》

OK	0	ATコマンドを実行した
CONNECT	1	接続された
RING	2	リング音を検出した
NO CARRIER	3	キャリアが検出できない、キャリアが消滅した
ERROR	4	ATコマンドに誤りがある。低電圧検知で発信しようとした。
CONNECT 1200	5	1200bpsで接続された
NO DIALTONE	6	ダイヤルトーンが検出できない
BUSY	7	話中音を検出した
CONNECT 2400	10	2400bpsで接続された
CONNECT 4800	11	4800bpsで接続された
CONNECT 7200	12	7200bpsで接続された
CONNECT 9600	13	9600bpsで接続された
CONNECT 12000	14	12000bpsで接続された
CONNECT 14400	15	14400bpsで接続された
CONNECT 19200	16	19200bpsで接続された
CONNECT 38400	17	38400bpsで接続された
CONNECT 57600	18	57600bpsで接続された
CONNECT 115200	19	115200bpsで接続された
CONNECT 1200/REL	22	1200bpsで接続された（エラー訂正あり）
CONNECT 2400/REL	23	2400bpsで接続された（エラー訂正あり）
CONNECT 4800/REL	24	4800bpsで接続された（エラー訂正あり）
CONNECT 7200/REL	25	7200bpsで接続された（エラー訂正あり）
CONNECT 9600/REL	26	9600bpsで接続された（エラー訂正あり）
CONNECT 12000/REL	27	12000bpsで接続された（エラー訂正あり）
CONNECT 14400/REL	28	14400bpsで接続された（エラー訂正あり）
CONNECT 19200/REL	29	19200bpsで接続された（エラー訂正あり）
CONNECT 38400/REL	30	38400bpsで接続された（エラー訂正あり）
CONNECT 57600/REL	31	57600bpsで接続された（エラー訂正あり）
CONNECT 115200/REL	32	115200bpsで接続された（エラー訂正あり）
CARRIER 300	40	回線速度300bps（V.21/BELL 103）
CARRIER 1200	42	回線速度1200bps（V.22/BELL 212）
CARRIER 2400	43	回線速度2400bps（V.22bis）
CARRIER 4800	44	回線速度4800bps（V.32）
CARRIER 7200	45	回線速度7200bps（V.32bis）
CARRIER 9600	46	回線速度9600bps（V.32/V.32bis）
CARRIER 12000	47	回線速度12000bps（V.32bis）
CARRIER 14400	48	回線速度14400bps（V.32bis）

COMPRESSION:CLASS5	66	MNPクラス5 データ圧縮を使用する
COMPRESSION:V.42BIS	67	V.42bisデータ圧縮を使用する
COMPRESSION:NONE	69	データ圧縮しない
PROTOCOL:NONE	76	非同期モードで動作する
PROTOCOL:LAPM	77	V.42LAPMで動作する
PROTOCOL:ALT	80	V.42ANNEX MNPクラス4以下で動作する
TEL NO:xxxx	90	通信相手の電話番号を表示する
BREAKDOWN	91	無線装置が故障している
TEL NO:NONE	94	通信相手から電話番号の通知がない
REDIAL ERROR	96	リダイヤル規制

2 ATコマンド（PHS）

（1）《データモードATコマンド》

コマンドの()内は初期値
◎：&Wコマンドで不揮発性メモリに保存します。

コマンド	機能	パラメータ
A/	コマンド再実行(ATは付加しない)	ー
A	手動着信	ー
Dn	ダイヤル発信	省略：電話機より電話番号を入力 0～9,#,＊：電話番号 [-],[SP],[(],[)]:電話番号の区切りとして使用可能 ;：無視 ,：無視 L：直前の電話番号をリダイヤル S=n：AT&Zn で設定した電話番号をダイヤル W：無視 P：PTE接続 #32：電話番号の後ろに追加して32Kデータ通信を行う #64：電話番号の後ろに追加して64Kデータ通信を行う T：無視 ATD:（ダイヤルなし）電話機より電話番号入力 サブアドレス区切り文字：[/],[¥],[*],[#]からS103レジスタに設定した文字 PTE番号区切り文字：[*]
◎En n=0,(1)	コマンドエコー	0：エコーなし 1：エコーあり
Hn n=0,1	HOOKスイッチ	0：HOOK ON 1：HOOK OFF
In n=1,2, 3,4	製品コード/バージョンの表示	1：PHS 2：I-O DATA DEVICE,INC. 3：バージョン番号 4：SnapConnect
O	オンラインモード切り替え	ー
◎Qn n=(0),1	リザルトコード表示	0：リザルトコードあり 1：リザルトコードなし

コマンド	機能	パラメータ
Sn=x	nで指定したSレジスタに値xを設定	（n, xはSレジスター覧を参照）
Sn?	nで指定したSレジスタの値を表示	（nはSレジスター覧を参照）
◎Un n=(0), 1, 2, 3	発着信番号表示の設定 （ATQ0, ATV1, AT¥V0またはAT¥V2の場合に有効）	0：発着信番号表示なし 1：発信番号表示あり、着信番号表示なし 2：発信番号表示なし、着信番号表示あり 3：発着信番号表示あり
◎Vn n=0, (1)	リザルトコードの表示形式	0：数字形式 1：文字形式
Zn n=(0)	アダプタのリセット （通信中の場合、呼の切断も行う）	0：&Wの保存値で初期化
◎&Cn n=0, (1)	CD信号出力設定	0：常時ON 1：データリンク中ON
◎&Dn n=0, 1, (2), 3	ER信号制御	0：無視 1：OFFでエスケープモード 2：OFFで回線を切断 3：OFFでリセット
◎&En n=(0), 1	速度表示の選択	0：無線区間の回線速度を表示する 1：DTEシリアル速度を表示する
&F	初期化	ー
◎&Kn n=0, (3), 4,	フロー制御	0：フロー制御なし 3：RS/CSフロー制御 4：XON/XOFFフロー制御
◎&Sn n=(0), 1, 2	DR信号出力設定	0：常時ON 1：ハンドシェーク開始時ON、回線断でOFF 2：ハンドシェーク終了時ON、回線断でOFF
&V	現在の設定値とメモリに保存されている値を表示	
&W	現在の設定値を不揮発メモリに保存	ー
◎&Zn=x n=0～19, 99	最大35桁の電話番号xをメモリに保存	0～19：指定メモリに電話番号xを登録、 x省略時電話番号を消去 99：全メモリの電話番号を一括消去

コマンド	機能	パラメータ
◎¥Kn n=0, 1, 2, 3, 4, (5)	ブレーク信号受信時の動作	0, 1：バッファクリア後、端末装置にブレーク信号送出 2, 3：端末装置にブレーク信号送出 4, 5：バッファデータ送出後、端末装置にブレーク信号送出
◎¥Qn n=0, 1, (3)	端末装置と本装置間のフロー制御	0：フロー制御なし 1：XON/XOFFフロー制御 3：RS/CSフロー制御
¥S	設定値の表示	ー
◎¥Tn n=(0), 1～60	無通信監視タイマ値設定	0：監視なし 1～60：監視時間1～60分
◎¥Vn n=0, (1), 2	PHSリザルトコード(下記)表示（QO設定時のみ有効） 「PS LOW BATTERY」 「ADP LOW BATTERY」 「NOT READY」 「OUT OF SERVICE」 「IN SERVICE」 「PS NO RESPONCE」 「RESTRICTION」	0：「IN SERVICE」以外を表示 1：表示しない 2：表示する
◎¥Wn n=(0), 1	速度表示の表示する／しないの選択	0：回線速度またはDTEシリアル速度を表示しない 1：回線速度またはDTEシリアル速度を表示する
◎¥Zn n=(0), 1	接続時アダプタ間プロトコル表示	0：表示しない 1：表示する
◎%Cn n=(0), 1, 2, 3	データ圧縮機能	0：圧縮なし 1～3：V.42bis
◎#CLS=n n=0, 1, (2), 3	PDC/PHS選択	0：データ通信モード 1：0の場合と同じ 2：パケット通信モード 3：PHS通信モード(PDC I/Fを使用するPHS対応電話機)
◎#Dn n=0, (1)	電話番号通知	0：通知しない 1：通知する

コマンド	機能	パラメータ
◎#In n=(0),1	相手（発信・着信）番号を表示	0：表示しない 1：表示あり なし:直前の通信相手の電話番号を表示
◎#M=n n=(0)	PHSアダプタ間のプロトコル設定	0：PIAFS
#M?	設定されているアダプタ間プロトコルの表示	
◎#Nn n=(0) 1,2,3	自動着信時、着信拒否	0：着信拒否しない 1：着信拒否する 2：着信許可番号ならば着信する 着信許可番号以外または、通信相手からの電話番号の通知がない場合、着信拒否 3：着信許可番号ならば着信する 着信許可番号以外または、通信相手からの電話番号の通知がない場合、着信拒否しない
◎#PM=n n=(0)～3	ATDPコマンド発信する場合のPTE電話番号を指定	0～3：#PNで登録したPTE番号を指定
◎#PNn=x n=0～3,99	PTE電話番号の登録	0～3：指定PTE番号に電話番号xを登録、 x省略時電話番号を消去 99：全PTE番号の電話番号を一括消去
◎#SBn	#Dに同じ	#Dに同じ
◎#Tn=x n=0～19	着信許可番号 （最大20件）	n=0～19：nで指定したパラメータに着信許可番号Xを保存する 「x」を省略した場合、nで指定したパラメータの内容を消去する n=99　：保存されている着信許可番号を一括消去する

（2）《Sレジスタ》

◎S0	着信モード設定	(0)：手動着信 1～15：RING1～15回で自動着信
◎S2	エスケープシーケンスの文字コード	0～127（43：'+'）
S3	キャリッジリターンの文字コード	0～127（13：CR）
S4	ラインフィードの文字コード	0～127（10：LF）
S5	バックスペースの文字コード	0～32（8：BS）
◎S7	ダイヤル終了後、キャリア検出までの待ち時間	1～57（50）単位：秒
◎S12	エスケープコード入力の前後に必要な遅延時間	0～255（50）単位：1/50秒 ※0にすると、エスケープモードへは移行できません
S23	ビットマップレジスタ（Read Only）	0～255(27) Bit2,1,0=000:DTEスピード　300bps 010:DTEスピード　1200bps 011:DTEスピード　2400bps 100:DTEスピード　4800bps 101:DTEスピード　9600bps 110:DTEスピード 19200bps 111:Bit5,6,7を有効にする Bit4,3=00:偶数パリティ 10:奇数パリティ 11:ノンパリティ Bit7,6,5=000:DTEスピード　7200bps 001:DTEスピード 12000bps 010:DTEスピード 14400bps 011:DTEスピード 38400bps 100:DTEスピード 57600bps 101:DTEスピード115200bps
◎S25	ER信号OFF検出時間	0～255（5）単位：10ミリ秒
S32	XONキャラクタコード	0～255（17）
S33	XOFFキャラクタコード	0～255（19）

S86	接続失敗時の原因コード （Read Only）	(0)：切断理由なし 1：欠番 16：正常切断 17：着ユーザービジー 18：着ユーザーレスポンスなし 19：相手ユーザー呼び出し中 20：相手ユーザー圏外 21：通信拒否 22：加入者番号変更 27：相手端末故障 28：無効番号フォーマット 34：利用可回線／チャネルなし 38：網障害 41：一時故障 42：交換機輻輳 44：要求回線／チャネル使用不可 88：端末属性不一致
S88	接続失敗時の原因コード （ReadOnly）	(0)：通常の回線切断 1：発着信衝突 2：システム指定なし 3：番号情報不足 4：手動発信タイムアウト 5：自動発信タイムアウト 6：PHS圏外 10：S7レジスタ値タイムアウト 15：その他 50：発信要求拒否 52：PHSシステム不一致 53：PHS故障 54：PHS応答なし 55：PHS使用中 60：装置本体間誤り訂正不一致 61：PIAFS異常終了 71：ER断 72：発信中のキー入力による切断 73：PHSリスタート

S93	DTE速度初期値設定 （10進数で値を設定する）	設定値=(パリティ指定番号×100)＋DTE速度指定番号 0：初期値なし 1～4：Reserved
	0～15：(偶数パリティ) 100～115：(奇数パリティ) 200～215：(パリティなし)	5：1200 6：2400 7：4800 8：7200 9：9600 10：14400 11：19200 12：28800 13：38400 14：57600 15：115200 パリティ 0：偶数パリティ 1：奇数パリティ 2：パリティなし
◎S103	サブアドレスの区切り	0：スラッシュ″/″ 1：バックスラッシュ″＼″またはエンマーク″¥″ (2)：アスタリスク″*″ 3：シャープ″#″
◎S110	PTE接続指定	(0)：ATD,ATDT指定によるダイヤル発信はPTE接続しない 1：ATD,ATDT指定によるダイヤル発信はPTE接続する ただし、ATDPによるダイヤル発信時は本レジスタの値に関わらずPTE接続する
◎S111	スタンバイモードへの移行時間指定	(0)：低消費電力モードには移行しない 1～255：時間（単位：秒）
◎S141	データ転送プロトコル情報	0：PIAFS 32Kbits/S (10)：PIAFS 64Kbits/S
◎S142（注2）	64Kbits/Sから32bits/Sへのフォールバック	(0)：フォールバックしない 1：フォールバックする

注1) ・ ◎付きレジスタは&Wコマンドで不揮発性メモリに保存します。
・ S23,S86,S88レジスタは読み取り専用です。
・ 範囲外の値が入力された場合は正しく設定されない場合があります。
・未サポートレジスタが指定された場合の値は設定されません。
未サポートレジスタには値を入力しないでください。

注2) ・αDATA32、αDATA64では、未サポート

（3）《リザルトコード》

OK	0	ATコマンドを実行した
CONNECT	1	接続された
RING	2	リング音を検出した
NO CARRIER	3	キャリアが検出できない、キャリアが消滅した
ERROR	4	ATコマンドに誤りがある。低電圧検知で発信しようとした。
CONNECT 1200	5	1200bpsで接続された
NO DIALTONE	6	ダイヤルトーンが検出できない
BUSY	7	話中音を検出した
NO ANSWER	8	相手応答なし
CONNECT 2400	10	2400bpsで接続された
CONNECT 4800	11	4800bpsで接続された
CONNECT 7200	12	7200bpsで接続された
CONNECT 9600	13	9600bpsで接続された
CONNECT 12000	14	12000bpsで接続された
CONNECT 14400	15	14400bpsで接続された
CONNECT 19200	16	19200bpsで接続された
CONNECT 38400	17	38400bpsで接続された
CONNECT 57600	18	57600bpsで接続された
CONNECT 115200	19	115200bpsで接続された
COMPRESSION:V.42BIS	67	V.42bisデータ圧縮を使用する
COMPRESSION:NONE	69	データ圧縮しない
PROTOCOL:PIAFS	82	PIAFSで接続した
TEL NO:xxxx	90	通信相手の電話番号を表示する
BREAKDOWN	91	無線装置が故障している
OUTSIDE	92	圏外である
TEL NO:NONE	94	通信相手から電話番号の通知がない
REDIAL ERROR	96	リダイヤル規制
RESTRICTED DIAL	97	電話網からの発信規制
PS LOW BATTERY	101	PSバッテリー警告
ADP LOW BATTERY	102	装置本体バッテリー警告
NOT READY	103	リダイヤル規制時間内表示
OUT OF SERVICE	104	圏外
IN SERVICE	105	圏内
PS NO RESPONCE	106	PS応答なし
CONNECT 32000	121	回線速度32000bpsで接続された
CONNECT 64000	122	回線速度64000bpsで接続された

3 ATコマンド（ｃｄｍａＯｎｅ）

（１）《データモードATコマンド》

コマンドの()内は初期値
◎：&Wコマンドで不揮発性メモリに保存します。

コマンド	機能	パラメータ
A/	コマンド再実行(ATは付加しない)	ー
A	手動着信	ー
Dn	ダイヤル発信	省略：電話機より電話番号を入力 0～9,#,*,A,B,C,D：電話番号 [-],[SP],[(],[)]：電話番号の区切りとして使用可能 ,：無視 L：直前の電話番号をリダイヤル W：無視 P：無視 T：無視 I：パケット対応電話機の場合、パケット通信を行う J：データ通信を行う
◎En n=0,(1)	コマンドエコー	0：エコーなし 1：エコーあり
Hn n=0,1	Hookスイッチ	0：HOOK ON 1：HOOK OFF
In n=3	製品コード/バージョンの表示	3：バージョン番号
O	オンラインモード切り替え	ー
◎Qn n=(0),1	リザルトコード表示	0：リザルトコードあり 1：リザルトコードなし
Sn=x	nで指定したSレジスタに値xを設定	（n,xはSレジスター覧を参照）
Sn?	nで指定したSレジスタの値を表示	（nはSレジスター覧を参照）
◎Vn n=0,(1)	リザルトコードの表示形式	0：数字形式 1：文字形式

コマンド	機能	パラメータ
Zn n=0	アダプタのリセット （通信中の場合、呼の切断も行う。複数コマンドをまとめて入力した場合、Zコマンド以降のコマンドは無視される）	0：&Wの保存値で初期化
◎&Cn n=0,(1)	CD信号出力設定	0：常時ON 1：データリンク中ON
◎&Dn n=0,1, (2),3	ER信号制御	0：無視 1：OFFでエスケープモード 2：OFFで回線を切断 3：OFFでリセット
&F	初期化	ー
◎&Kn n=0,(3), 4,	フロー制御	0：フロー制御なし 3：RS/CSフロー制御 4：XON/XOFFフロー制御
◎&Sn n=(0),1, 2	DR信号出力設定	0：常時ON 1：ハンドシェーク開始時ON、回線断でOFF 2：ハンドシェーク終了時ON、回線断でOFF
&V	現在の設定値とメモリに保存されている値を表示	
&W	現在の設定値を不揮発メモリに保存	ー
◎¥Qn n=0,1, (3)	端末装置と本装置間のフロー制御	0：フロー制御なし 1：XON/XOFFフロー制御 3：RS/CSフロー制御
¥S	設定値の表示	ー
◎#CLS=n n=0,1, (2)	ASYNC//パケット選択	0：ASYNC通信モード 1：0の場合と同じ 2：パケット通信モード

（2）《Sレジスタ》

◎S0	着信モード設定	(0)：手動着信 1～15：RING1～15回で自動着信
◎S2	エスケープシーケンスの文字コード	0～127（43：'+'）
S3	キャリッジリターンの文字コード	0～127（13：CR）
S4	ラインフィードの文字コード	0～127（10：LF）
S5	バックスペースの文字コード	0～32（8：BS）
◎S7	ダイヤル終了後、キャリア検出までの待ち時間	1～57（50）単位：秒
◎S8	Dコマンドにおける「,」の一時停止時間	0～255（2）単位：秒
◎S12	エスケープ・コード入力の前後に必要な遅延時間	0～255（50）単位：1/50秒
S23	ビットマップレジスタ（Read Only）	0～255(27) Bit2,1,0=000:DTEスピード　300bps 010:DTEスピード　1200bps 011:DTEスピード　2400bps 100:DTEスピード　4800bps 101:DTEスピード　9600bps 110:DTEスピード 19200bps 111:Bit5,6,7を有効にする Bit4,3=00:偶数パリティ 10:奇数パリティ 11:ノンパリティ Bit7,6,5=000:DTEスピード　7200bps 001:DTEスピード 12000bps 010:DTEスピード 14400bps 011:DTEスピード 38400bps 100:DTEスピード 57600bps 101:DTEスピード115200bps
◎S25	ER信号OFF検出時間	0～255（5）単位：10ミリ秒
S32	XONキャラクタコード	0～255（17）
S33	XOFFキャラクタコード	0～255（19）

S86	接続失敗時の原因コード（Read Only）	(0)：自局からの切断 1：相手局からの切断 2：発呼中(ASYNC/パケット)または着信中(ASYNC)の切断
S88	接続失敗時の原因コード（Read Only）	200～：ASYNC自局からの切断 210～：パケット自局からの切断 250～：相手局からの切断 1～：ASYNC発呼中の切断 20～：ASYNC着信中の切断 100～：パケット発呼中の切断
◎S93	DTE速度初期値設定（10進数で値を設定する） 0～15：(偶数パリティ) 100～115：(奇数パリティ) 200～215：(パリティなし)	設定値=(パリティ指定番号×100)＋DTE速度指定番号 （初期値=213） 0：初期値なし 1：Reserved 2：Reserved 3：Reserved 4：Reserved 5：1200 6：2400 7：4800 8：7200 9：9600 10：14400 11：19200 12：28800 13：38400 14：57600 15：115200 パリティ 0：偶数パリティ 1：奇数パリティ 2：パリティなし

注）・ ◎付きレジスタは&Wコマンドで不揮発性メモリに保存します。
・ S23, S86, S88レジスタは読み取り専用です。
・ S12レジスタの値を0にするとエスケープモードへは移行できません。
・ 範囲外の値が入力された場合は正しく設定されない場合があります。
・ 未サポートレジスタが指定された場合の値は設定されません。
未サポートレジスタには値を入力しないでください。

（3）《リザルトコード》

OK	0	ATコマンドを実行した
CONNECT	1	接続された
RING	2	リング音を検出した
NO CARRIER	3	キャリアが検出できない、キャリアが消滅した
ERROR	4	ATコマンドに誤りがある。低電圧検知で発信しようとした。
CONNECT 1200	5	1200bpsで接続された
NO DIALTONE	6	ダイヤルトーンが検出できない
BUSY	7	話中音を検出した
CONNECT 2400	10	2400bpsで接続された
CONNECT 4800	11	4800bpsで接続された
CONNECT 7200	12	7200bpsで接続された
CONNECT 9600	13	9600bpsで接続された
CONNECT 12000	14	12000bpsで接続された
CONNECT 14400	15	14400bpsで接続された
CONNECT 19200	16	19200bpsで接続された
CONNECT 38400	17	38400bpsで接続された
CONNECT 57600	18	57600bpsで接続された
CONNECT 115200	19	115200bpsで接続された

4 ATコマンド（H″, feelH″）

（1）《データモードATコマンド》

コマンドの()内は初期値
◎：&Wコマンドで不揮発性メモリに保存します。

コマンド	機能	パラメータ
A/	コマンド再実行(ATは付加しない)	ー
A	手動着信	ー
Dn	ダイヤル発信	省略：電話機より電話番号を入力 0～9, #, *, A, B, C, D：電話番号 [-], [SP], [(], [)]：電話番号の区切りとして使用可能 ;：無視 ,：無視 L：直前の電話番号をリダイヤル S=n：AT&Zn で設定した電話番号をダイヤル W：無視 P：PTE接続 ##3：電話番号の後ろに追加して32Kデータ通信を行う ##4：電話番号の後ろに追加して64Kデータ通信を行う T：無視 [/], [¥], [*], [#]：サブアドレスの区切り [*]：PTE番号の区切り
◎En n=0, (1)	コマンドエコー	0：エコーなし 1：エコーあり
Hn n=0, 1	Hookスイッチ	0：HOOK ON 1：HOOK OFF
In n=1, 2, 3, 4	製品コード/バージョンの表示	1：PHS 2：I-O DATA DEVICE, INC 3：バージョン番号 4：SnapConnect
O	オンラインモード切り替え	ー

コマンド	機能	パラメータ
◎Qn n=(0), 1	リザルトコード表示	0：リザルトコードあり 1：リザルトコードなし
Sn=x	nで指定したSレジスタに値xを設定	（n, xはSレジスター覧を参照）
Sn?	nで指定したSレジスタの値を表示	（nはSレジスター覧を参照）
◎Un n=(0), 1, 2, 3	発着信番号表示の設定 （ATQ0, ATV1, AT¥V0またはAT¥V2の場合に有効）	0：発着信番号表示なし 1：発信番号表示あり、着信番号表示なし 2：発信番号表示なし、着信番号表示あり 3：発着信番号表示あり なし：直前の通信相手の電話番号を表示
◎Vn n=0, (1)	リザルトコードの表示形式	0：数字形式 1：文字形式
Zn n=0	アダプタのリセット （通信中の場合、呼の切断も行う。複数コマンドをまとめて入力した場合、Zコマンド以降のコマンドは無視される）	
◎&Cn n=0, (1)	CD信号出力設定	0：常時ON 1：データリンク中ON
◎&Dn n=0, 1, (2), 3	ER信号制御	0：無視 1：OFFでエスケープモード 2：OFFで回線を切断 3：OFFでリセット
◎&En n=0, 1	表示速度設定	0：無線区間の回線速度を表示 1：DTEシリアル速度を表示
&F	初期化	ー
◎&Kn n=0, (3), 4,	フロー制御	0：フロー制御なし 3：RS/CSフロー制御 4：XON/XOFFフロー制御
◎&Sn n=(0), 1, 2	DR信号出力設定	0：常時ON 1：ハンドシェーク開始時ON、回線断でOFF 2：ハンドシェーク終了時ON、回線断でOFF
&V	現在の設定値とメモリに保存されている値を表示	
&W	現在の設定値を不揮発メモリに保存	ー

コマンド	機能	パラメータ
◎&Zn=x n=0～19, 99	最大35桁の電話番号xをメモリに保存	0～19：指定メモリに電話番号xを登録、 x省略時電話番号を消去 99：全メモリの電話番号を一括消去
◎¥Kn n=0, 1, 2, 3, 4, (5)	ブレーク信号受信時の動作（n=0, 2, 4を選択した場合、それぞれn=1, 3, 5を設定する）	0, 1：バッファクリア後、端末装置にブレーク信号送出 2, 3：端末装置にブレーク信号送出 4, 5：バッファデータ送出後、端末装置にブレーク信号送出
◎¥Qn n=0, 1, (3)	端末装置と本装置間のフロー制御	0：フロー制御なし 1：XON/XOFFフロー制御 3：RS/CSフロー制御
¥S	設定値の表示	―
◎¥Tn n=(0), 1～60	無通信監視タイマ値設定	0：監視なし 1～60：監視時間1～60分
◎¥Wn n=(0), 1	回線速度/DTEシリアル速度の表示	0：表示しない 1：表示する
◎¥Zn n=(0), 1	CONNECT時、アダプタ間接続(圧縮)プロトコルの表示	0：表示しない 1：表示する
◎%Cn n=0, 1, 2, (3)	データ圧縮機能（2400bps電話機使用時、n=0）	0：圧縮なし 1：MNP5 2：V.42bis 3：V.42bis及びMNP5
◎#Dn n=0, (1)	電話番号通知	0：通知しない 1：通知する
◎#In n=(0), 1	相手（発信・着信）番号を表示	0：表示しない 1：表示あり なし:直前の通信相手の電話番号を表示

#M=n
n=(0)
	アダプタ間プロトコル設定(PIAFS)	0：PIAFS

◎#M?	設定されているアダプタ間プロトコルの表示	
◎#Nn n=(0) 1, 2, 3	自動着信時、着信拒否	0：着信拒否しない 1：着信拒否する 2：着信許可番号ならば着信する 着信許可番号以外または、通信相手からの電話番号の通知がない場合、着信拒否 3：n=0と同じ

コマンド	機能	パラメータ
◎#PM=n n=(0), 1, 2, 3	PTE電話番号の指定	n=0～3：ATDPコマンドでPTE発信する場合のPTE電話番号の指定
◎#PNn=x n=0, 1, 2, 3, 99	PTE電話番号xの登録	n=0～3:PTE電話番号xの登録（xを省略した場合、nで指定した電話番号は削除） n=99：登録したPTE電話番号を一括削除（xは省略）
#SBn	#Dに同じ	#Dに同じ
◎#Tn=x n=0～19	着信許可番号 （最大20件） （[-], [SP], [(], [)]を除いた着信許可番号保存）	n=0～19：nで指定したパラメータに着信許可番号Xを保存する 「x」を省略した場合、nで指定したパラメータの内容を消去する n=99　：保存されている着信許可番号を一括消去する

（2）《Sレジスタ》

◎S0	着信モード設定	(0)：手動着信 1～15：RING1～15回で自動着信
◎S2	エスケープシーケンスの文字コード	0～127（43：'+'）
S3	キャリッジリターンの文字コード	0～127（13：CR）
S4	ラインフィードの文字コード	0～127（10：LF）
S5	バックスペースの文字コード	0～32（8：BS）
◎S7	ダイヤル終了後、キャリア検出までの待ち時間	1～57（50）単位：秒
◎S12	エスケープ・コード入力の前後に必要な遅延時間	0～255（50）単位：1/50秒
S23	ビットマップレジスタ（Read Only）	0～255(27) Bit2,1,0=000:DTEスピード　300bps 010:DTEスピード　1200bps 011:DTEスピード　2400bps 100:DTEスピード　4800bps 101:DTEスピード　9600bps 110:DTEスピード 19200bps 111:Bit5,6,7を有効にする Bit4,3=00:偶数パリティ 10:奇数パリティ 11:ノンパリティ Bit7,6,5=000:DTEスピード　7200bps 001:DTEスピード 12000bps 010:DTEスピード 14400bps 011:DTEスピード 38400bps 100:DTEスピード 57600bps 101:DTEスピード115200bps
◎S25	ER信号OFF検出時間	0～255（5）単位：10ミリ秒
S32	XONキャラクタコード	0～255（17）
S33	XOFFキャラクタコード	0～255（19）

S86	接続失敗時の原因コード （Read Only）	(0)：切断理由なし 1：欠番 16：正常切断 17：着ユーザービジー 18：着ユーザーレスポンスなし 19：相手ユーザー呼出中 20：相手ユーザー圏外 21：通信拒否 22：加入者番号変更 27：相手端末故障 28：無効番号フォーマット 34：利用可回線/チャネルなし 38：網障害 41：一時故障 42：交換機輻輳 44：要求回線/チャネル使用不可 88：端末属性不一致
S88	（Read Only）	(0)：通常切断 1：発着信衝突 2：システム指定なし 3：番号情報不足 4：手動発信タイムアウト 5：自動発信タイムアウト 6：PHS圏外 10：S7レジスタによるタイムアウト 15：その他 50：発信要求拒否 52：PHSシステム不一致 53：PHS故障 54：PHS応答なし 55：PHS使用中 60：アダプタ本体間誤り訂正不一致 61：PIAFS異常終了 71：ER断 72：発信中のキー入力による切断 73：PHSリスタート

◎S93	DTE速度初期値設定 （10進数で値を設定する） 0～15：(偶数パリティ) 100～115：(奇数パリティ) 200～215：(パリティなし)	設定値=(パリティ指定番号×100)＋DTE速度指定番号 （初期値=213） 0：初期値なし 1：Reserved 2：Reserved 3：Reserved 4：Reserved 5：1200 6：2400 7：4800 8：7200 9：9600 10：14400 11：19200 12：28800 13：38400 14：57600 15：115200 パリティ 0：偶数パリティ 1：奇数パリティ 2：パリティなし
◎S103	サブアドレスの区切り	0：スラッシュ″/″ 1：バックスラッシュ″＼″またはエンマーク″¥″ (2)：アスタリスク″*″ 3：シャープ″#″
◎S110	PTE接続指定	(0)：ATD,ATDTによるダイヤル発信はPTE接続しない 1：ATD,ATDTによるダイヤル発信はPTE接続する
◎S111	スタンバイモードへの移行時間指定	(0)：低消費電力モードには移行しない 1～255：時間（単位：秒）
◎S141	データ転送プロトコル	0：PIAFS 32Kbit/s (10)：PIAFS 64Kbit/s

注）・ ◎付きレジスタは&Wコマンドで不揮発性メモリに保存します。
・ S23,S86,S88レジスタは読み取り専用です。
・ S12レジスタの値を0にするとエスケープモードへは移行できません。
・ 範囲外の値が入力された場合は正しく設定されない場合があります。
・ 未サポートレジスタが指定された場合の値は設定されません。
未サポートレジスタには値を入力しないでください。

（3）《リザルトコード》

OK	0	ATコマンドを実行した
CONNECT	1	接続された
RING	2	リング音を検出した
NO CARRIER	3	キャリアが検出できない、キャリアが消滅した
ERROR	4	ATコマンドに誤りがある。低電圧検知で発信しようとした。
CONNECT 1200	5	1200bpsで接続された
NO DIALTONE	6	ダイヤルトーンが検出できない
BUSY	7	話中音を検出した
CONNECT 2400	10	2400bpsで接続された
CONNECT 4800	11	4800bpsで接続された
CONNECT 7200	12	7200bpsで接続された
CONNECT 9600	13	9600bpsで接続された
CONNECT 12000	14	12000bpsで接続された
CONNECT 14400	15	14400bpsで接続された
CONNECT 19200	16	19200bpsで接続された
CONNECT 38400	17	38400bpsで接続された
CONNECT 57600	18	57600bpsで接続された
CONNECT 115200	19	115200bpsで接続された
COMPRESSION:V.42BIS	67	V.42bisデータ圧縮を使用する
COMPRESSION:NONE	69	データ圧縮しない
PROTOCOL:NONE	76	非同期モードで動作する
PROTOCOL:PIAFS	82	PIAFSで接続した
PROTOCOL:PIAFS64	85	PIAFS64で接続した
TEL NO:xxxx	90	通信相手の電話番号を表示する
BREAKDOWN	91	無線装置が故障している
OUTSIDE	92	圏外である
TEL NO:NONE	94	通信相手から電話番号の通知がない
REDIAL ERROR	96	リダイヤル規制
CONNECT 32000	121	回線速度32000bpsで接続された
CONNECT 64000	122	回線速度64000bpsで接続された

Memo

6．ふろく

困ったときには

ここでは、問題の現象とその対処方法が書かれています。
問題の大半はすぐ解決できることです。ぜひ、お試しください。

電話機に合ったケーブルを使用し、取扱説明書（本書）に従ってインターネット接続の設定を行ったが、接続できません

原因 1 電波感度が悪く、接続できません。

対処 電波感度の良好な場所に移動してご使用ください。

原因 2 電話機本体にゴミデータが入り、接続できません。

対処 ケーブルを電話機からいったん取り外してください。その後電話機の電源を入れ直し、ケーブルを再び接続して再度行ってください。
（ケーブルが確実に接続されていることもご確認ください。）

原因 3 本製品の乾電池の残量がなくなりました。

対処 電池の向きに注意し、2 本とも新品の単 4 形アルカリ乾電池に交換してください。
⇒本書 15 ページ【電池を交換する方法】参照

原因 4 ご利用の場所と接続先の電話番号（または電話機の設定）が合っていません。

対処

・PHS、ドッチーモ（PHS）でご利用の場合

⇒a ご利用の場所が 64K サービスエリアであること、電話番号が 64K 対応であることをプロバイダにご確認ください。対応していない場合は 32K で接続してください。
（設定方法は本書 18 ページ参照）

⇒b-1［環境設定］をタップして、画面右上のメニューから［ネットワーク］を選択します。
-2［電話番号］をタップします。
（ダイヤルの設定画面が表示されます。）
-3 電話番号の末尾に「#32」を追加入力してください。
-4［OK］ボタンをタップします。

対処

・H"でご利用の場合

⇒a 前ページ「PHS、ドッチーモでご利用の場合」の a を参照

⇒b 電話番号の末尾に「##3」を追加入力してください。

（前ページ「PHS、ドッチーモでご利用の場合」の b を参照）

・cdmaOne でご利用の場合

⇒電話機の設定を、接続先に合ったモード（ASYNC/Packet）に合わせてください。

（設定方法は、お使いの電話機の取扱説明書を参照）

原因 5

通信ソフト（ブラウザソフトやメールソフト）と PDA 本体（Palm OS）で、接続方法の設定が合っていません。

対処

通信ソフトの起動と同時にデータ通信が行われる（電話機の発信も自動で行われる）場合、データ通信を行う前に以下をご確認ください。

①PDA 本体（Palm OS）の［環境設定］をタップして、画面右上のメニューから［ネットワーク］を選択します。

②［接続］欄は、本製品の設定※が選択されていることを確認します。

※本書 21 ページ手順 **2** で設定した本製品の［接続名］を選択

（本書画面例では「SnapConnect」）

③［接続］ボタンをタップして、接続完了となることを確認します。



▲接続後の画面例

PDA 本体（Palm OS）の［環境設定］－［ネットワーク］から接続を実行しても、接続が完了できません

原因 1

接続先の電話番号が、デジタル携帯電話（PDC）や PHS からは発信できない電話番号です。

対処

ご自宅の電話回線等で接続していた接続先電話番号が、フレッツ ISDN 専用の番号または「0088」など有線電話回線の業者経由の番号である可能性があります。モバイルでは同じ電話番号で使用できない場合があります。

⇒ご契約のプロバイダにご確認ください。

原因 2

お使いの電話機で行いたい通信方式と、設定した接続先電話番号の対応している通信方式が一致しません。

対処

・**通信方式が PDC の場合**（本書 20 ページの表のタイプ A,B）：
アナログモデム用の電話番号で接続できます。
・**パケット通信を行う場合**（タイプ C,E）：
電話機の通信事業者のパケット通信対応電話番号をご利用ください。
⇒電話機の通信事業者にご確認ください。

原因 3

お使いの電話機に合った設定が間違っています。

対処

【ステップ 1 本製品の設定】(18 ページ)で、お使いの電話機および通信方式に合った設定を行っているかご確認ください。
①20 ページの表で当てはまるタイプを確認します。
②-a **［電話番号追加設定］が必要な場合**：
［環境設定］をタップして画面右上のメニューから［ネットワーク］を選択します。［電話番号］に入力している番号の末尾に必要な追加設定が入力されているか、入力した文字に間違いがないかご確認ください。
②-b **［AT コマンド追加設定］が必要な場合**：
［環境設定］をタップして画面右上のメニューから［接続］を選択します。［使用できる設定］で登録した本製品の設定を選択して［編集］ボタンをタップします。
表示された画面で［詳細］ボタンをタップし、［コマンド］に入力している文字の末尾に必要な追加設定が入力されているか、入力した文字に間違いがないかご確認ください。

PDA 本体（Palm OS）の［環境設定］－［ネットワーク］から接続を実行すると、「モデムが見つかりません」と表示されます

原因

速度の設定が合っていません。

対処

［環境設定］をタップして画面右上のメニューから［接続］を選択します。［使用できる設定］で登録した本製品の設定を選択して［編集］ボタンをタップします。
表示された画面で［詳細］ボタンをタップし、［速度］で 115,200bps 以下になっているかご確認ください。

接続する電話機を変更したら、インターネットに接続できません

原因

変更後の電話機や通信方式に合った追加設定が設定されていません。

対処

ご利用の電話機や通信方式によって、AT コマンドや接続先の電話番号の末尾に追加設定が必要な場合があります。【3. 使えるようにしよう -ソフトウェアの設定-】(17 ページ)を参照して、追加設定が必要かどうかご確認ください。必要な場合は、追加設定を行ってください。

ドッチーモなどの複合機で、PDC（データ）通信モードではインターネットに接続できるが、PHS モードでは接続できません（逆の場合もある）

原因 1

本製品を使用してドッチーモによる通信をする場合、PDC（データ）通信モードと PHS モードは自動的に切り替えることはできません。

対処

AT コマンドの入力により切り替える必要があります。【3. 使えるようにしよう -ソフトウェアの設定-】(17 ページ)を参照して、追加設定を行ってください。

原因 2

PDC（データ）通信と PHS で、プロバイダの電話番号が異なる場合があります。

対処

お使いのプロバイダの電話番号がお使いの通信方式で利用できるかどうかをご確認ください。
詳しくは、お使いのプロバイダにお問い合わせください。

対処

ドッチーモなどの複合機において、電話機側の設定で「カード設定メニュー」「データカード設定」を「自動」「自動切替」にしてデュアルモードにする必要があります。

ハードウェア仕様

●デジタル携帯電話データ通信アダプタ部仕様

項目	データ	パケット※1
適応回線	デジタル携帯電話/自動車電話回線	
回線接続方式	16芯プラグ	
通信方式	全二重	
通信速度	最大9600bps	28.8Kbps/9600bps
通信規格	RCR STD-27準拠	
通信制御手順	-	
対応キャリア※2	NTTドコモ、au、J-PHONE、ツーカー	NTTドコモ

●cdmaOne通信アダプタ部仕様

項目	データ	パケット※1
適用回線	cdmaOne携帯電話回線	
回線接続方式	18芯プラグ	
通信方式	全二重	
通信速度	最大14.4Kbps	64Kbps/14.4Kbps/9600bps
通信規格	ARIB STD T-53、IS-707、IS-99	
対応キャリア	au	

●PHS, H", feelH", α-DATA32対応電話機データ通信アダプタ部仕様

項目	PIAFS1.0	PIAFS2.0	PIAFS2.1
制御コマンド	ATコマンド準拠		
同期方式	調歩同期式（非同期）		
通信方式	全二重		
通信速度	32Kbps	64Kbps/32Kbps	64Kbps/32Kbps
対応キャリア	NTTドコモ,アステル,DDIポケット	NTTドコモ	DDIポケット

※1：パケット通信対応の電話機と、パケット通信の契約が別途必要です。
※2：デジタル携帯電話800MHz、1.5GHzタイプが使用可能です。FOMA、アナログタイプではご使用いただけません。

●一般仕様

型番	PC9664-500
電源	単4形アルカリ乾電池×2
消費電力	180mW（max）
外形寸法	69.4(TW)×121.5(D)×27.0(H)mm
動作温度範囲	0～+40℃
動作湿度範囲	90%以下（結露しないこと）
質量 (乾電池・ケーブル含まず)	約68g
認定番号	A02-0081JP

PLANTコールセンターへのお問い合わせ

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名
3. ご使用のPDA本体と電話機種名
4. ご使用のOSとアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名
5. 現在の状態(起こったタイミング、本製品や画面、メッセージなどについて)

■オンライン

インターネット　**http://www.iodata. jp/support/**

■郵便

住所　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
PLANTコールセンター
「SnapConnect 500」係　宛

■電話・FAX

電話番号	金沢　076-260-3644　東京　03-3254-1144
電話受け付け時間	9:30～19:00　月～金曜日(祝祭日を除く)
FAX番号	金沢　076-260-3360　東京　03-3254-9055

本製品に関するお問い合わせはPLANTコールセンターのみで行っています。
あらかじめご了承ください。

修理について

修理の前に

故障かな？と思ったときは、
①本書をもう一度ご覧いただき、設定などをご確認ください。
②弊社PLANTコールセンターへお問い合わせください。
（【PLANTコールセンターへのお問い合わせ】をご覧ください）

明らかに故障の場合は、下記内容を参照して、本製品をお送りください。

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。
その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について

・保証期間中は、無償にて修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有償となります。
※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。

・保証期間が終了した場合は、有償にて修理いたします。
※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

・お送りいただいた後、有償修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時にFAX番号をお知らせいただければ、修理金額をFAXにて連絡させていただきます。）

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

●メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、ハードウェアシリアルNO.、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

●これらを用意してください

・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）

※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。

・下の内容を書いたもの

返送先［住所/氏名/(あれば)FAX番号］,日中にご連絡できるお電話番号,
ご使用環境（機器構成、OSなど）,故障状況（どうなったか）

●修理品を梱包してください

・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。

・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。

※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

●修理をご依頼ください

・修理は、販売店へご依頼いただくか、下の送付先※までお送りくださいますようお願いいたします。

※ 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　修理係　宛

修理品の返送

・修理品到着後、通常約１週間ほどで弊社より返送できます。

※ただし、有償の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。

・修理品の返送日については以下の窓口にお問い合わせください。

●サービス窓口

お問い合わせの際は、ご依頼の際にメモに控えた内容をお伝えください。

電話番号　076-260-3663
受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日を除く）

SnapConnect 500（PC9664-500）　取扱説明書
2002.Feb.14　102823-01
発 行　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

© 2002 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。